

三協立山グループ

CSR報告書2018

Sankyo-Tateyama Group

Corporate Social Responsibility Report

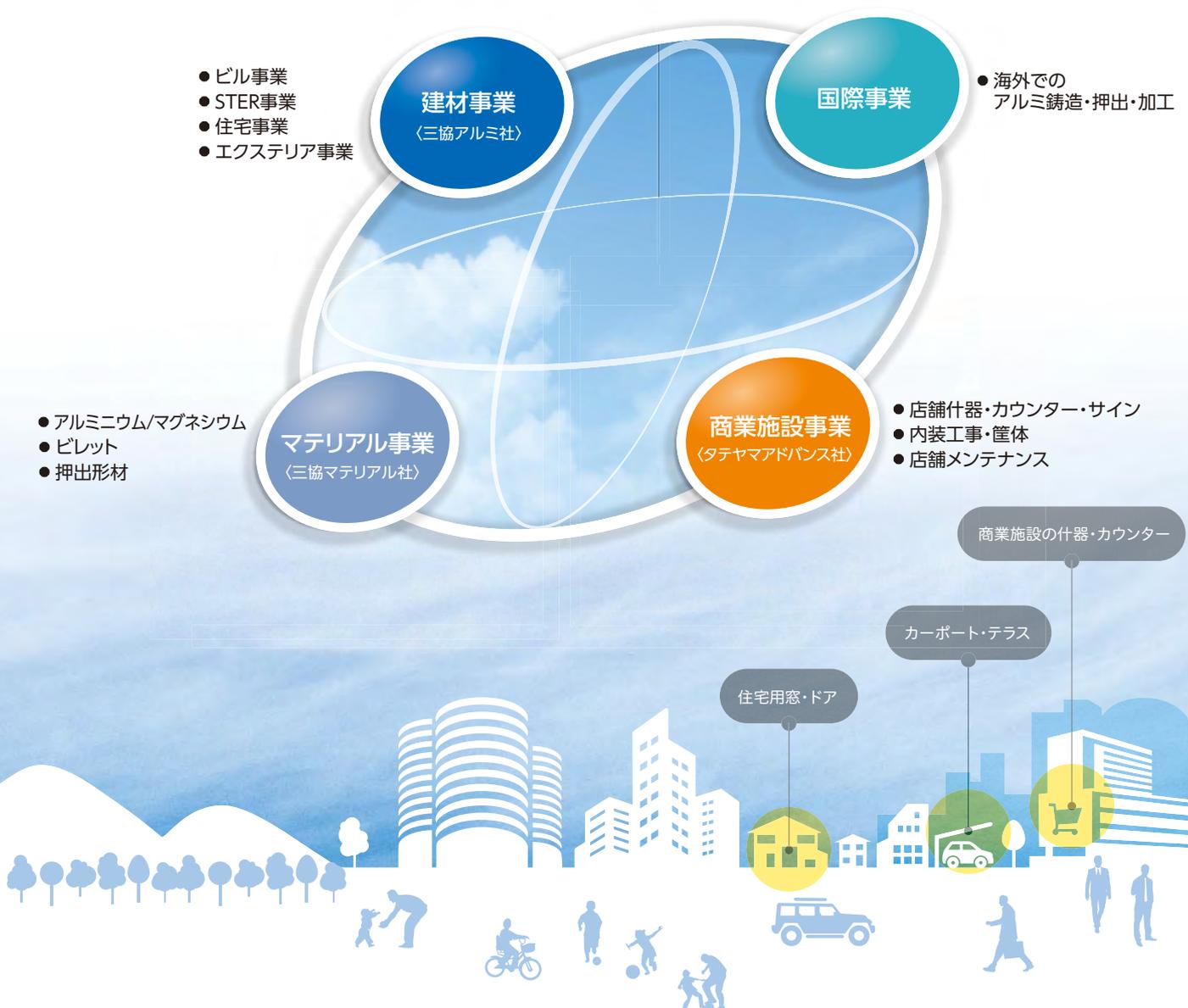


Life with Green Technology

『環境技術でひらく、豊かな暮らし』

“Green Technology=環境技術”とは、「地球環境の改善に関わるあらゆる技術」のこと。例えば、省エネ、再生可能（自然）エネルギー使用、CO₂などの温室効果ガス排出削減、水質汚染防止などの環境負荷低減のための活動に用いられるさまざまな技術の総称です。

三協立山グループの技術力を集結し、
環境配慮型商品・素材・空間によって新しい価値を創造し、
人々の豊かな暮らしを実現する企業グループへ。



を実現する企業グループへ

Contents

ごあいさつ	P. 3
特集(森づくり活動)	P. 5 ~
健全な企業活動	P. 7 ~
社会との調和	P.18 ~
人間尊重	P.25 ~
環境との調和	P.27 ~
第三者意見	P.44
三協立山 会社概要	P.45

私たちの身の回りで、
たくさんの三協立山の製品が
使われています

自動車の部材

室内建材

ビル用サッシ

コンビニのサイン・看板

ビル改装用建材

パブリックエクステリア

航空機の部材

鉄道車両の部材

「新しい価値」を創造し、「ものづくり」で豊かな暮らしの実現に貢献します。

社会の役に立つ「ものづくり」

三協立山グループの最も重要なCSR(企業の社会的責任)とは、「ものづくり」です。わたしたちは、商品・サービスをはじめ、さまざまな企業活動を通じて社会に貢献していく、そこに企業としての存在意義があると考えます。

ブランドメッセージ「Life with Green Technology～環境技術でひらく、豊かな暮らし～」には、総合建材メーカーとして培ってきた技術を生かして、地球環境や社会との調和を図りながら、暮らしに役立つ「新しい価値」を創造していこうという思いが込められています。

この思いは、家庭やオフィスの省エネルギーに貢献することはもちろん、変化する社会に目を向けて、多様なニーズへきめこまやかに応える商品開発につながっています。例えば、高い断熱性能は勿論、近年増加傾向にある気候変動に対応した高耐久性能を実現するとともに、「フラットレール」などお手入れのしやすさにもこだわったアルミ樹脂複合サッシ「アルジオ」をはじめ、わずか1日で玄関ドアの交換が可能な「ノバリス リフォーム玄関ドア」など、新たな価値をご提供する商品を市場投入し、お客様より高い評価をいただいています。

わたしたちは、常に、豊かな暮らしに不可欠な「幸せ」「安心」「快適」「優しさ」という4つの基本的な価値にこだわり、時代のニーズに応じて商品・サービスを進化させ、新しい価値を創造し、社会にお届けしてまいります。

環境と調和した「ものづくり」

当グループは、美しい自然に恵まれた地域で、ものづくりに取り組む企業として、「創ろう美しい地球を」をスローガンに掲げ、環境マネジメントシステムを構築し、地球温暖化防止や廃棄物対策に継続的に取り組んでまいりました。

今後も、地球にも人にも優しい商品の開発を行う企業として、事業活動における環境負荷の低減に一層努力していく所存です。

健全な企業活動による「ものづくり」

ものづくりを通じて社会に貢献していく企業は、その事業活動自体が、コンプライアンスを遵守し、社会や環境と調和しながら、また人間を尊重するものでなくてはなりません。

当グループでは、2007年にCSRの4原則として「健全な企業活動」「社会との調和」「環境との調和」「人間尊重」を定め、「CSR憲章」として明文化し、この4つの原則に基づいてCSR活動に取り組んでいます。

わたしたちのCSR活動は、社会に必要とされる企業であり続けるため、グループの全社員がCSR憲章を心にきざみ、日々、健全な企業活動に取り組んでまいります。



代表取締役社長

山下 清胤

経営理念と行動指針

三協立山グループは、創業の原点である「お客様」「地域社会」「社員」の三者が協力し、共栄するという協業の精神に基づいた経営理念のもと、健全な企業活動を通じて社会に貢献していくことが、私たちの使命であると考えています。

経営理念

お客様・地域社会・社員の協業のもと、新しい価値を創造し、お客様への喜びと満足の提供を通じて、豊かな暮らしの実現に貢献します。

行動指針

私たちは

①お客様満足

常にお客様の視点に立ち、誠実に対応することで、信頼される存在であり続けます。

②価値創造

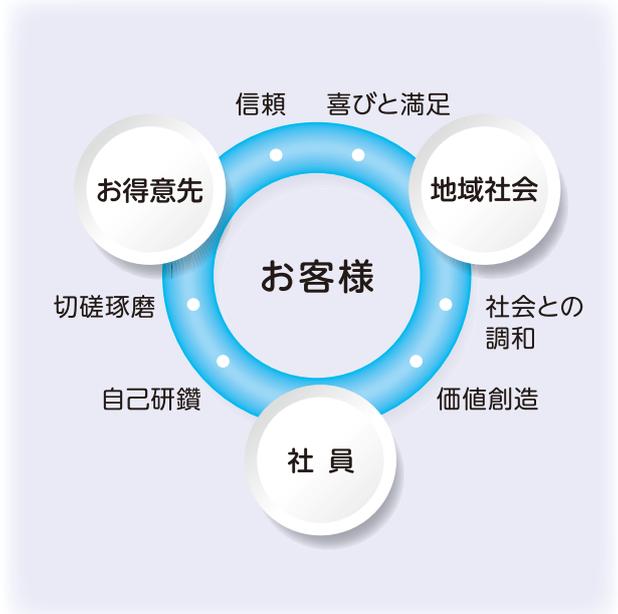
技術と知識の向上に努め、新たな製品の開発とサービスの提供にたゆまず挑戦し続けます。

③社会との調和

環境、地域社会、人との調和を考えて行動し、人と自然にやさしい企業であり続けます。

④自己研鑽

自己研鑽に励み、互いに切磋琢磨し、働き甲斐のある企業風土を育みます。



CSR憲章

総則

三協立山グループは、社会から信頼されながら、かつ継続的に発展することを望まれる企業となるため、企業の社会に対する責任（CSR: Corporate Social Responsibility）を果たす以下の4つの原則に基づいて行動します。

CSR
Corporate Social Responsibility

企業の
社会的責任

原則

[1]健全な企業活動

- ①お客様の立場で行動し、お客様の立場に立った商品・サービスを提供します。
- ②法令・企業倫理等を遵守し、公正で自由な競争を行うとともに、公的機関とは透明かつ厳正な関係を維持します。
- ③会社に不利益となる行為を禁止し、反社会的勢力に対しては、毅然とした態度で臨みます。
- ④会社の情報、財産、資産およびお客様の情報は、厳重かつ適正な管理を行います。

[2]社会との調和

- ①国内外の文化・習慣を尊重するとともに、社会貢献活動を積極的に行います。

[3]環境との調和

- ①自ら責任を持ち、環境保全活動に取り組むとともに、積極的に地域活動に参画し、社会に貢献します。
- ②環境負荷の少ない商品を優先的に提供するとともに、積極的に技術革新の活用を図ります。

[4]人間尊重

- ①全ての人々の基本的人権を尊重し、安心して健康な働きやすい職場環境を築きます。

ツインリーフの森づくり

第16回 下草刈活動を実施



三協立山は、地域の環境保全に貢献したいとの思いから、2013年7月から「ツインリーフの森づくり」を行っています。これは、富山県が推進する「企業の森づくり」に参画し、高岡市が保有する「とやま・ふくおか家族旅行村」の雑木林において社員とその家族がボランティアで行う、植樹と維持管理などの森をつくり、守る活動です。

2013年以降毎年秋には500本のサクラやコナラなどの広葉樹の苗木を植え、翌年春にその根踏みをし、梅雨明け頃には下草刈りを行うという活動を続けてきました。

2017年11月には最後の植樹を行い、これにより予定通り5年間で2,500本の苗木を植えました。

今回2018年6月17日の活動は、昨年秋に植えた苗木周辺の草刈りを行う「下草刈り」です。社員とその家族合計43名が参加し、山の急斜面で手に鎌を持ち、苗を覆うほど伸びた草やからみつくツルを刈り取り、苗木の成長を手助けしました。



5年間の活動経過

- 2013年 4月 富山県「企業の森づくり」に参画、高岡市と「森づくりに関する協定」を締結
- 2013年 7月 ①下草刈活動
- 2013年 8月 社内募集より活動名称を「ツインリーフの森づくり」に決定
- 2013年11月 記念式典、②植樹活動
- 2014年 4月 ③根踏み活動
- ~2018年4月 ①②③を5年間実施



植樹苗の成長状況

2013年11月に植えた苗は、今では4メートルくらいの高さに成長しています。一昨年11月に植えた苗でも、2メートル近くのものも見受けられます。



2013年11月2日 (第2回 植樹)

2014年7月27日 (第4回)

2015年8月2日 (第7回)

2016年7月31日 (第10回)

2018年4月22日 (第15回)

INTERVIEW

母も植えた桜の成長と開花を心待ちにしています。

三協マテリアル社
生産管理部生産管理課

飯室 成介
(さゆりさん、陸さん、優奈さん)



家族と自然の中で一緒に作業することが楽しく、今回で4度目の参加です。来るたびに大きくなっている木を見ると嬉しいです。名古屋に住む母もここで一緒に桜を植えたのですが、開花をとても楽しみにしています。

作業を通じて家族同士が知り合いになれば、昼食のときに会話したり、子供同士で遊んだりできるのもいいと思います。

大きな自然に触れる
またとない機会です。

三協アルミ社
ビル商品部ビル商品開発二課

藤井 誠
(祐光さん)



毎回参加しています。普段の暮らしでは、森の中で自然に触れることはあまりないです。植樹などは個人ではできないので、とても貴重な機会になっています。

植えるだけでなく、日が当たりやすいように草を刈ってあげる作業を通じて、木が育つのが簡単ではないことを子供達が理解し、木や自然を大切にすることを育てばいいなどと思っています。

親子で楽しく
森づくりに参加している姿を見ると嬉しくなります。

指導員
富山県西部森林組合
瀬川 瑠衣子さん



山登りが好きで、4年前に森林組合に転職し、今は組合員さんの山などの森林の維持管理が主な業務です。「企業の森づくり」活動では、ボランティアの方に鎌の扱い方や蜂が出た時の対処方法など、特に安全に気を配って指導しています。

美しく災害に強い森林の維持にはたいへん手間がかかりますが、この森づくり活動は、「森を守るのは人間」ということを理解するきっかけになり、とても意義深いと思います。親子で楽しく参加できるこの活動をずっと続けてほしいと思っています。

今後の活動について

森づくりは、「苗木を植えて終わり」ではなく、苗木が十分に成長するまで長い年月にわたる手入れが重要です。これまで、社員とその家族の協力によって、当初の計画通り、2,500本の広葉樹を植え、育てることができましたが、今後も苗木がさらに成長するまでの間(2028年までの10年間)、この活動を継続し、高岡市の美しい森林の維持に貢献していきます。

CSR※活動の推進

三協立山グループは、CSRを経営の最重要課題と位置付け、CSRの推進により、社会からの信頼確保に努めています。

※CSR：Corporate Social Responsibility(企業の社会的責任)

● CSR活動実績 ●

CSRにかかわる活動は、関連部署で各々推進しています。2017年度の主な活動項目は、下表の通りです。2018年度も関連部署でCSR活動に取り組み、レベルアップを図っていきます。

CSR憲章	要素/活動項目	目標・方針など	実施事項	評価	該当ページ	SDGsゴール
健全な企業活動	1. CS(Customer Satisfaction:顧客満足)/顧客満足向上活動の推進	CS意識向上と行動の徹底	○CS単位活動に258チームがエントリーして活動を推進 ○優秀事例を表彰して社内公開し、水平展開を図る	☀	P22	
	2. 顧客要望に応える商品の提供/使いやすさを追求した商品の提供	UD設計検討書、ユーザーチェックリストでの評価実施(UD:ユニバーサルデザイン)	○UD設計検討書、UDユーザー評価会で15テーマについて評価を実施	☀	P11	
	3. コーポレートガバナンス/内部統制の有効性・効率性の向上	内部統制・リスクマネジメントおよび内部監査活動の一元的管理	○内部統制委員会において、リスク管理の一体的取り組み報告や内部監査報告などを実施	☀	P8	
	4. リスクマネジメント/リスク管理の強化	グループ全体のリスク管理体制の強化	○内部統制委員会にて、リスク管理の方針や計画などを審議 ○3月末時でのリスク評価実施	☀	P8	
	5. コンプライアンス/CSR・コンプライアンスの再徹底	CSR・コンプライアンスの理解度の向上	○本社管理者研修会、新任支店長・工場長研修会を実施 ○従業員向けコンプライアンス情報誌を隔月発行	☀	P9	
	6. 情報セキュリティ/お客様情報の管理の徹底	お客様情報漏洩事故発生件数ゼロ	○個人情報などの漏洩事故なし ○セキュリティ動画の視聴やウイルスメール訓練を実施	☀	P10	
社会との調和	1. コミュニケーション/ステークホルダーとのコミュニケーションの充実	四半期決算に則した投資家対応の強化	○四半期ごとの決算短信をホームページに掲載 ○機関投資家との個別ミーティングによる業績説明を実施	☀	P24	
	2. 社会貢献/地域に根ざした社会貢献活動の推進	積極的な参加	○富山マラソン2017などのイベントへ協賛 ○高岡・射水地区自衛消防訓練大会、富山県「交通安全チャレンジ1・2・3運動」などに参加 ○森づくり活動、保育園環境教室、工場見学受け入れ、清掃活動などを実施	☀	P5、6、18-20、35	
環境との調和	1. 環境保全/環境保全活動の推進	CO ₂ 排出量を2014年度比2017年度生産量原単位全体で3%削減	○2017年度CO ₂ 排出量原単位は、2014年度比2.3%削減	☁	P31、32	
	2. 環境商品・技術/環境配慮商品の開発推進	断熱性能向上商品、換気・通風に配慮した商品開発の推進	○断熱6商品、自然採風5商品を開発	☀	P12~14	
人間尊重	1. 組織・人づくり/ダイバーシティの推進	障がい者雇用率2.2%以上	○障がい者雇用率2.13% ○新入社員研修において、健常者と障がい者がともに研修を受講	☁	P25	
	2. 安全衛生/心身の健康度の向上	ストレスチェック受検率95%	○ストレスチェック受検率97.6% ○メンタルヘルス不調者に対するカウンセリングサービスを整備	☀	P26	

☀ 目標・方針など達成 ☁ 目標・方針など未達

持続可能な開発目標

(SDGs:Sustainable Development Goals)

持続可能な開発目標(SDGs)とは、2015年9月、ニューヨーク国連本部において、193の加盟国の全会一致で採択された国際目標です。社会が抱える問題を解決し、世界全体で2030年を目指して明るい未来を作るための17のゴールと169のターゲットで構成されています。



コーポレートガバナンス※

三協立山グループは、株主およびその他ステークホルダー、そして社会からの信頼を築き、ともに発展していくことを経営の基本方針としており、そのために、コーポレートガバナンスの強化を図り、企業価値の向上に努めることが、経営の重要課題の一つと位置づけています。

具体的には、グループ経営計画および経営戦略を策定し、グループ会社の指導・監督を行うとともに、ステークホルダーへの説明責任を果たし、透明性を確保していくことが当社の重要な役割であると認識しています。また、当社が担う事業領域と機能の中で明確な事業責任を負い、市場競争力をより一層強化することでグループ全体の価値向上を図っていきます。

なお、当社は、コーポレートガバナンス体制の更なる強化を図るため、2015年8月開催の定時株主総会をもって、監査役会設置会社から監査等委員会設置会社に移行しました。

※コーポレートガバナンス：企業統治

● コーポレートガバナンス体制の状況 ●

取締役会、経営会議

取締役会は、取締役（監査等委員である取締役を除く）9名、監査等委員である取締役5名で構成されています。当社グループおよび当社の経営に関する重要事項を決定するとともに、基本的な経営戦略の決定と経営全般の監督、グループ全体の経営課題およびグループ各社の重要事項について審議を行っています。

当社は、執行役員制・事業役員制を導入し、業務執行責任の明確化と意思決定の迅速化を図っています。また、事業年度に関する責任を明確にし、緊張感を持って経営にあたるとともに、経営環境の変化に迅速に対応できる経営体制を構築するため、取締役（監査等委員である取締役を除く）および執行役員ならびに事業役員任期を1年としています。取締役会は代表取締役社長が議長となり事業の状況把握を迅速に行うため、当社の社内カンパニーである三協アルミ社、三協マテリアル社、タテヤマアドバンス社の各社長と国際事業の代表が出席しています。

また、当社は取締役構成員のほか、各事業責任者および部門統括責任者で構成する経営会議を設置し、当社経営の基本方針に関する事項ならびに個別重要事項についての審議、決定と情報共有を行っています。

● 内部統制、リスク管理体制の状況 ●

内部統制システムの構築・運用、J-SOXへの対応

当社は、取締役会決議による「会社法内部統制システム基本方針」に従い、グループ全体で内部統制システムの充実を図っています。

当社および当社グループの実効性ある内部統制システムの構築を図るため、経営会議の中に内部統制委員会を設置し、諸施策の審議および実施状況の管理を行っています。また、金融商品取引法に基づく内部統制報告制度（J-SOX）に対応するため、財務報告の信頼性を確保する内部統制の評価ならびに整備推進支援を経営監査部が継続的に実施しています。

リスク管理の基本的考え方と体制の構築

当社は、リスク管理の実践を通じ、事業の継続・安定的発展を確保していくことをリスク管理の基本方針としています。

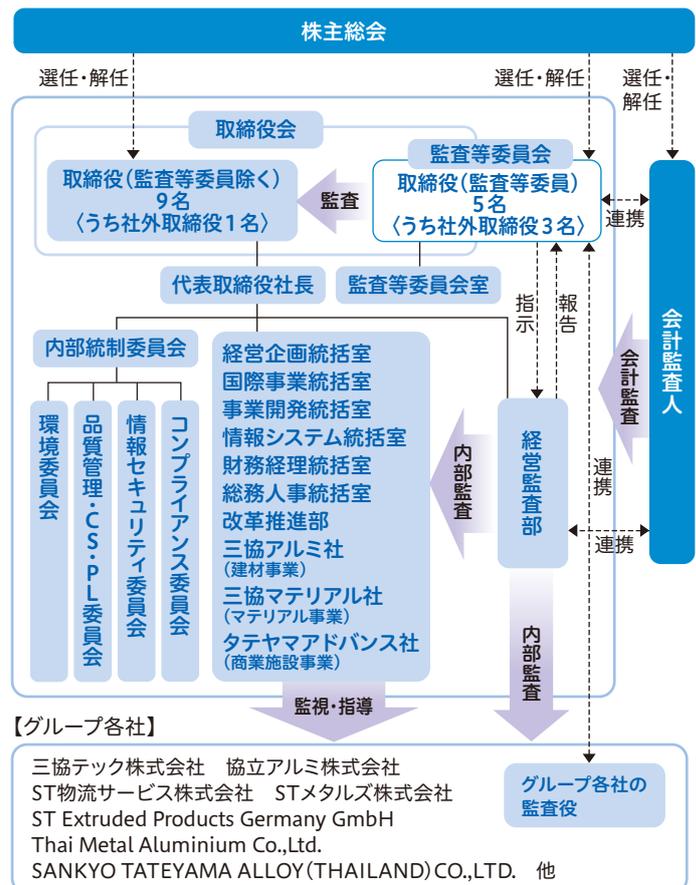
内部統制委員会にて、当社グループの内部統制とリスク管理の一体的な取り組みにおける方針・方向性・計画・対応状況などの審議を行っています。

また、当社に関わる不測事態の発生に対しては、グループで連携し、迅速かつ適切に対応策を講じるため、緊急時の組織体制を含めた危機管理規程およびマニュアルを整備し、損失ならびに損害を最小限に抑える体制を整えています。

監査等委員会監査、内部監査の状況

当社は、監査等委員会設置会社制度を採用しています。3名の社外取締役を含む5名の監査等委員は、取締役会をはじめ重要な会議・委員会に出席し意見を述べるなど、業務執行の全般にわたって監督機能の充実に努めています。また、監査等委員会は、グループ各社の監査役と連携を図るとともに、経営監査部がグループ各社の内部監査を行うことで、グループ各社の業務運営に対する監査を定期的に実施しています。また、監査等委員会室を設置し、監査等委員会の職務全般を補助しています。

● コーポレートガバナンス体制



コンプライアンスの推進

コンプライアンスは、三協立山グループにとって経営の重要事項の一つであると捉え、推進専任部署を2004年7月に設置しました。当社のコンプライアンス推進担当役員を委員長とする「三協立山コンプライアンス委員会」を設け、コンプライアンス推進基本方針に基づき、活動を進めています。

【コンプライアンス推進 基本方針】

- 1 全役職員が当社グループの社会的な使命と責任を認識し、法令・企業倫理・社内規程を誠実に遵守します。
- 2 コンプライアンスに最大の価値を置き、利益とコンプライアンスが相反する場合には、コンプライアンスを優先させます。
- 3 外部から不正・不当な要求がなされても、断固として拒否します。
- 4 グループ内でコンプライアンスに関する問題が生じた場合には、直ちにこれを是正します。

● 今年度活動報告 ●

各種研修・教育活動の実施

当社および総務系子会社の本社・開発管理者に対し、コンプライアンス研修を実施しました。不祥事の防止と健全な職場をつくるために、本研修を通じて、管理者としての役割・姿勢を見直す機会としました。

また、新入社員研修、階層別研修、および新任支店長・工場長研修を実施し、社会人として求められる行動やコンプライアンスの本質などについて考え、習得する機会を設けています。

コンプライアンス意識の啓発

職場内コンプライアンス活動推進のため、従業員向けコンプライアンス情報誌を隔月発行しています。コンプライアンスリーダーが、この情報誌の内容を職場の従業員に周知することで、職場内のコンプライアンス意識向上につなげています。また、コンプライアンスセルフチェックを全従業員に対して実施し、自分の行動を振り返る機会を提供しています。

今年度は、意識啓発のためのポスターを制作し、全職場に貼り出しています。

内部通報制度の理解促進

当グループでは、内部通報制度(通称:コンプライン)を設けています。内部通報窓口と外部通報窓口のほか、取締役および事業役員に係るコンプライアンス違反の通報先として、監査等委員会通報窓口を設置しています。また、内部通報制度の理解状況調査を毎年実施し、調査結果は啓発活動に反映させています。

今年度は、コンプラインの理解促進のため、コンプラインを題材とした標語を募集しました。975件の応募の中から選ばれた優秀賞受賞者を表彰し、優秀作品をポスター化して全職場に貼り出しています。



コンプラインポスター



標語表彰式

情報セキュリティの確保

三協立山グループでは、情報セキュリティの確保に関して、お客様の個人情報や取引情報の保護を最優先に取り組んでおり、従業員一人ひとりが情報セキュリティに対する適切な知識と行動を身に付けるよう実践しています。

● 情報セキュリティマネジメント体制 ●

当グループでは、情報システム担当役員を委員長とする「情報セキュリティ委員会」を設け、グループ全体の活動状況・課題を把握するとともに対応方針を決定しています。また、同委員会での決定事項は、実行・推進部門である「情報セキュリティ主管部門」のもと、各部門および各グループ会社に配置された約300名の「情報セキュリティ責任者」および「情報セキュリティ推進者」によって、全従業員に周知徹底を図っています。

● 情報セキュリティ確保への主な施策 ●

1. 教育・啓発

子会社を含めたグループ全体のガバナンス強化のため、情報セキュリティ基本方針および、規程・細則を整備しています。また従業員がよりセキュリティ意識を持って行動できるように、セキュリティ動画の視聴やウイルスメール訓練を実施しています。

2. 情報漏洩対策

社外に持ち出されるモバイルパソコンには、暗号化ソフトをインストールし、万が一盗難にあっても第三者に保存されているデータを盗み見されないよう対策をとっています。

また近年リスクが高まっている標的型攻撃メールの対策として、不審メールのブロックや未知の脅威を検知する仕組みを導入しています。

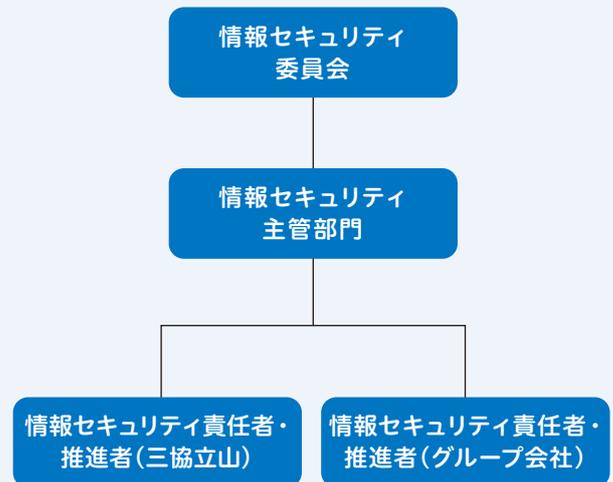
3. アクセス権の適切な管理

社内からの情報流出リスクを低減するために、サーバ資源へアクセスする時に入力するユーザーIDや、アプリケーションを利用するために使うIDに関して、定期的な再検証(利用者と権限の確認)を行っています。

4. 物理アクセス対策

これまで自社マシン室内に設置されていたホストコンピュータやサーバをデータセンターに移行することで、監視カメラや入退管理といった高レベルのセキュリティを確保しました。また建物の基礎免震構造や電源の二重化により、地震や停電などの災害時でもシステムを停止することなく運用できるようになりました。

● 情報セキュリティマネジメント体制(2018年6月1日)



VOICE)))

セキュリティ対策について

企業を標的としたセキュリティ攻撃は、高度化・巧妙化して日々増え続けています。

私たち情報システムでは、外部からの不正アクセスによる情報漏洩などのさまざまなセキュリティリスクに対応するため、サーバなど情報機器をデータセンターへ移設したり、外部との不正通信を検知・防御する機器を導入するなどの「ハード面」と、セキュリティ事故への定期的な予防訓練や教育、セキュリティ規定や情報機器の管理手続などのルール見直しといった「ソフト面」からセキュリティ環境の強化を図っています。

今後は、メールやWEB、USBメモリなど従来の経路以外にも、SNSアプリケーションなどの経路からの攻撃を想定して、セキュリティレベルの維持・向上に努めていきます。



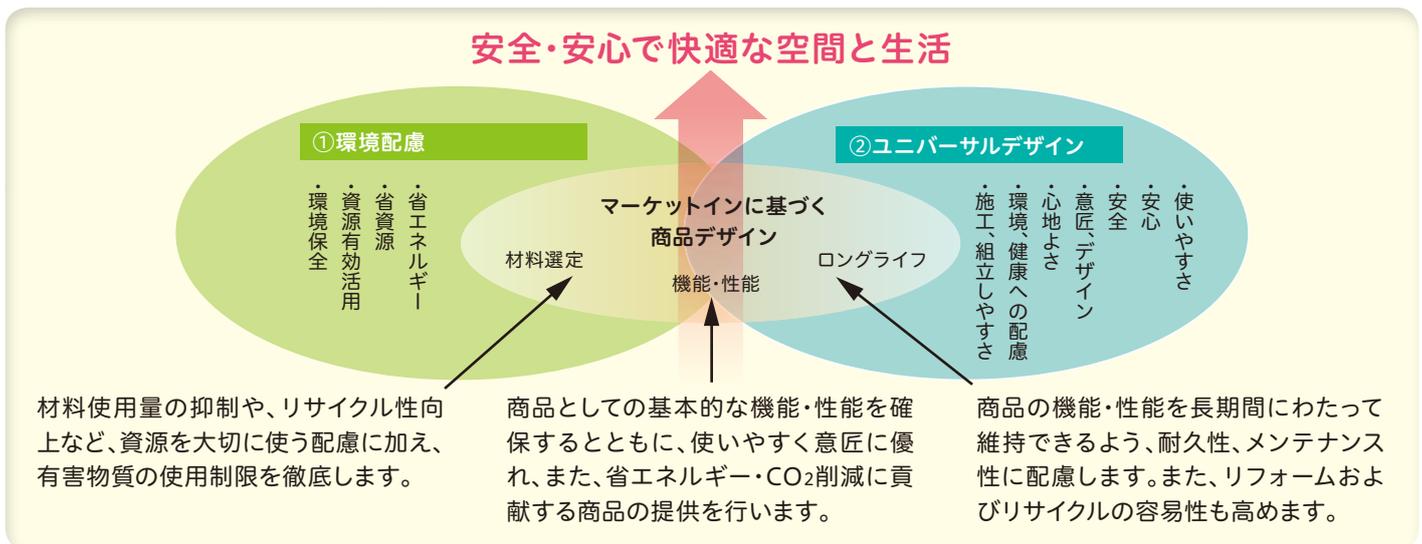
情報システム統括室
システム企画部運用課
松本 行央

商品開発の基本姿勢

三協立山グループは、商品・サービスの購買者ニーズを優先し、マーケットインをベースとした全体最適システムから生活視点で商品開発を行い、お客様の期待にお応えします。

● 商品開発理念 ●

安全・安心で快適な空間と生活に寄与するために、全ての新規開発商品において、①環境配慮と②ユニバーサルデザイン(以下UD)を基本に、「材料選定」、「機能・性能」、「ロングライフ」の3つの要素を使う人の立場に配慮して盛り込み、お客様へご提案しています。



● 環境配慮の商品づくりについて ●

環境配慮設計指針による商品開発

当社では、「環境配慮設計指針」を基本として商品開発を行っています。この中では、「省エネルギー」「省資源」「資源有効活用」「環境保全」の4つのコンセプトに基づき、材料選定、生産、流通、施工、使用から解体・廃棄までのライフサイクルでの環境負荷低減に努めています。

環境配慮商品

商品開発時には、環境配慮設計指針に基づいた「環境配慮設計チェックリスト」を用いて、全ての開発商品について、環境への影響を評価しています。

従来同等商品より環境への負荷が少なくなるよう目標を定め、総合点数が目標を上回った商品を『環境配慮商品』と定めています。(三協アルミの2017年度の環境配慮商品売上比率:81%)

● 4つのコンセプト

省エネルギー

- 断熱
- 遮熱
- 省電力
- 自然エネルギー利用

省資源

- リデュース
- 長寿命
- メンテナンス性

資源有効活用

- リユース
- リサイクル

環境保全

- 有害物質抑制
- 温室効果ガス

また、商品カタログには、環境配慮商品であることを示すマークを付けています。

● 環境配慮商品マーク



● ユニバーサルデザインの取り組み ●

UDユーザー評価会

UDユーザー評価会とは、開発商品の試作確認時にユーザー視点での商品評価を行うものです。ユーザー側の声を商品開発へフィードバックすることで、書類審査や開発関係者による検討だけでは気が付かない問題点を掘り起こします。



UDユーザー評価会

環境・UDに配慮した商品開発(1)

●「ARM-S U-series U+」 たて型・よこ型換気スリット ●

空調に頼らず、快適な室内環境を提供

「ARM-S U-Series」は、アームシリーズ共通のスリムなデザインが特徴の、ビル用ユニットサッシです。窓が開けられない中高層ビルでも、自然換気システム(たて型・よこ型換気スリット)を組み込むことで、自然の風を効率よく建物に取り込むことができます。



「ARM-S U-series U+」
外動引き分け窓

「ARM-S U-series U+」
たて型換気装置
定風量換気スリット

環境とUDへの配慮

- ① 自然の風を効率よく建物に取り込むことで、冷暖房抑制による省エネルギーに寄与
- ② 定風量機構タイプの場合、強風時でも室内に入る風量を一定に保つためやさしい風のみを室内へ取り入れ

商品の詳細はこちらから <http://www.arm-s.net/>

高性能省エネサッシシステム「ARM-S」の U+タイプ は、U (ユニットタイプ)を高断熱・高性能化したシリーズです。今回はこの U+ に自然換気システム(換気スリット)を組み込みました。

窓が開けられないことが多い中高層ビルにおいて、春や秋のシーズンでの自然換気は冷暖房抑制に効果的で、省エネにつながります。また、オフィスで新鮮な空気を取り入れることは、在室者の快適性向上につながり、仕事の効率アップなどの良好な心理的効果も期待できます。

換気は、1か所の窓を開けても風の道がつかれないので、効率よくできません。「ARM-S」の自然換気システムでは、建物の設計段階から計画的に風の道をつくり、風の流れを制御しますので、気持ちのいいオフィスづくりに貢献します。

VOICE)))



三協アルミ社
ビル商品部 ビル商品開発二課
橋本 将志

環境・UDに配慮した商品開発(2)

● インテリア建材「LiVERNO(リヴェルノ)」●

質感、快適性にこだわり進化した新インテリア建材

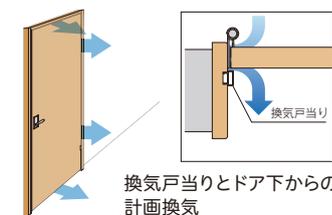
新インテリア建材「LiVERNO(リヴェルノ)」は、質感、快適性にこだわり進化した木質系室内建具の新シリーズです。総合建材メーカーとして人々の暮らしをいかに快適にできるかを追求し、多様化するお客様のニーズに対応します。



LiVERNO
リヴェルノ



クリエイターと考案した、独自性デザインの新ハンドル



換気戸当りとドア下からの計画換気

環境とUDへの配慮

- ①長く使っても飽きず、いつまでも愛着が持てるフォルムのハンドルデザイン
- ②上枠と吊元側のたて枠に通気ができる換気戸当りを標準設定。ドア下部と合わせて3方向から安定した通気で、換気経路に必要な開口を確保
- ③高齢者施設向け商品「大開口引戸」は、ゆっくり静かに閉まる「ソフトクローズ機能」、手を放すと自動的にゆっくり閉まる「自閉機能」の2つの安心機能を装備



高齢者施設向け商品「大開口引戸」

商品の詳細はこちらから

<http://alumi.st-grp.co.jp/products/interior/liverno/index.html>

VOICE)))



三協アルミ社
住宅商品部 住宅商品企画課
吉野 寿美枝

多様化するニーズ、トレンドに応えるため、従来の商品を一新し、「LiVERNO(リヴェルノ)」を発売しました。リヴェルノのスペシャルサイト(→http://alumi.st-grp.co.jp/products/interior/liverno_special/index.html)では、ものづくりに対する想いなどを紹介しています。

リヴェルノは、玄関ドアの開発でも力を発揮した「女性の感性」を重視しています。そのひとつは、刷新した小窓デザインです。新芽、鞠、星座など、女性らしさと柔らかな雰囲気表現しました。また、アルミ型材に数種類のガラスを組み込みレトロ感を表現したデザインは、他社にはないものです。

また、操作性のよさ、にぎりやすさ、やさしさのあるデザインのハンドルや、スムーズな動きで「開く」「閉まる」をサポートする「ソフトクローズ機能」など、使う人へのやさしさもしっかり備えています。

豊富なバリエーションをそろえたリヴェルノなら、デザインにこだわった、ご自分の空間を楽しんでいただけます。

環境・UDに配慮した商品開発(3)

●カーポート「スカイリード」●

中棧なしの新構造によりスタイリッシュで爽快なデザインを実現

「スカイリード」は、中棧^(※1)をなくしたオープンな新構造により、空まで視界が広がるような爽快感を実現したスタイリッシュなカーポート。高いデザイン性に加え、豊富な納まりバリエーションと敷地対応力で、お客様の住まいに合ったハイセンスなカースペースをご提案します。

※1 中棧・・・屋根パネルを支える横方向の部材



●従来の屋根に必要な中棧が、不要に



変形敷地にも対応可能

環境とUDへの配慮

- ①新構造により、組み立てねじを3種類に統一するとともに、ねじの本数を従来品の18%に削減。また、売れ筋サイズの2台用で56本あった中棧(部材)をなくしたことで、施工時間の削減(約20~30分)を実現
- ②ライフスタイルや敷地形状にあわせた納まりにも対応可能な、豊富なバリエーション

商品の詳細はこちらから

<http://alumi.st-grp.co.jp/products/garage/carport/skylead/index.html>

VOICE)))



三協アルミ社
エクステリア商品部 エクステリア商品開発二課
利根川 勝

新発売の「スカイリード」は、屋根が薄く見え、すっきりとしたデザインが好評の、奥行き勾配型カーポートです。従来必要であった、屋根パネルを支える中棧をなくすことで、より明るくオープンな屋根を実現しました。見た目だけでなく、部材・部品の削減による省資源化や、施工時間の短縮にもつなげており、発売以来、お客様から施工業者様まで高い評価を頂いています。

また、敷地形状にあわせた納まりなど豊富なバリエーションを用意しています。例えば、カースペースから玄関まで屋根で覆うと、雨の日の乗り降りが楽になり、荷物が多いときでも安心です。デザイン性と使いやすさを兼ね備えた「スカイリード」が、これからのカーポートのスタンダードとして街に広まって欲しいです。

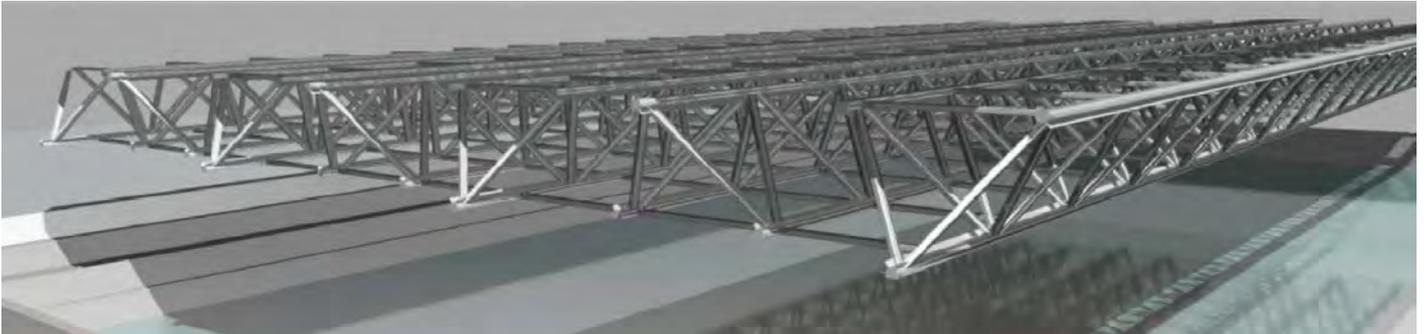
環境・UDに配慮した商品開発(4)

● アルミニウム合金製「軽量トラス^{※1}」の開発 ●

(株)住軽日軽エンジニアリングとの共同開発品

火山降灰時での水確保や改修・耐震工事に貢献

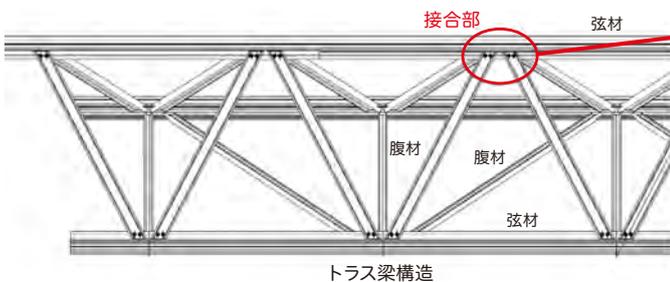
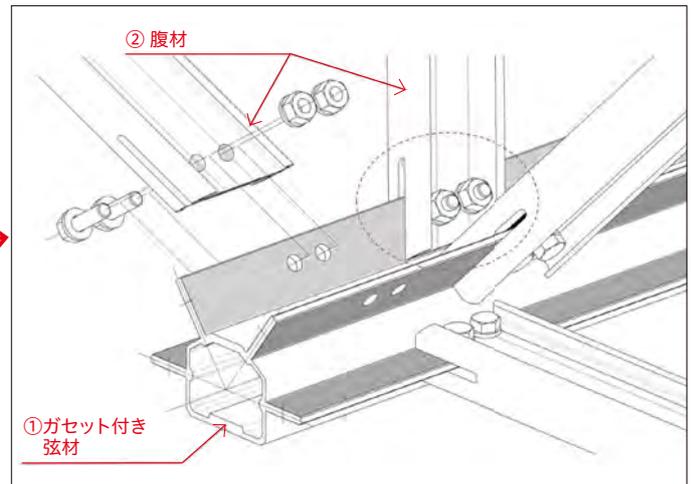
「軽量トラス」は、最大50m程度までの長いスパン^{※2}に架けることを想定した、アルミニウム合金製の構造体です。



この製品の特長である軽さを活かして、既設の構造物に屋根を設置するといった、老朽化した社会資本ストックの改修や耐震性向上を目的とした用途に見込まれます。そのほか、火山噴火による降灰や、テロ等違法行為による異物混入などへの防止策として、浄水場のため池に覆いかぶせてふたをする用途での活躍が期待されます。

※1 トラス・・・三角形を基本単位としてその集合体で構成する構造形式
 ※2 スパン・・・支点柱と支点柱との間距離

- ガセット付き弦材(右図①)に、腹材(右図②)を、直接ボルトで組み立てる構造とすることで、接合部分の部品を省略できるため、要求される強度に応じて部材を減らすことができます。
- 溶接による組立がないことから、加工や製作の手間が少ない、品質管理が比較的容易などのメリットがあります。



VOICE)))



三協マテリアル社
 商品設計部 商品設計課
 副島 眸

「軽量トラス」は、柱なしで50m程度のスパンを架けることができます。トラスの上にアルミ板などを貼ることで、浄水場のため池のふたや、古い建物の屋根の改修など、軽量であることが活かされる用途で引き合いがあります。

この製品の特長である軽さは、工事現場での組み立てや取り付けといった施工性のよさにもつながっています。また、ボルトで組み立てるだけなので、部品が少なく溶接のない簡易な構造となっています。

ボルト接合の場合、ボルトとボルト穴のすき間がほとんどないので、工場ではボルト穴位置の高い精度が要求されます。ただし、いったん組み立ててしまえば、調整の必要がないくらい精度のいい製品となります。

「軽量トラス」は、浄水場での降灰混入防止の目的で使用されますので、災害時における飲料水の安定供給確保に役立つものと思います。私たちの製品が、身近な生活のなかで貢献しているのだと実感しています。

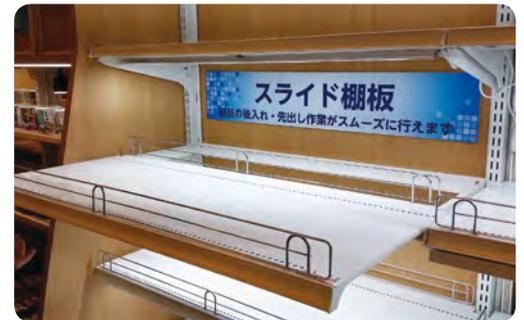
環境・UDに配慮した商品開発(5)

● 商品陳列什器用「KZスライド棚板」●

2018年9月発売予定

お店の作業効率アップに貢献する、薄型のスライド棚板

今までのスライド棚板と同等の強度を持ちながら、より薄い棚板を実現。商品を大量陳列してもスムーズに動くスライド機能で、商品の補充や前出し作業がしやすく、店舗の作業効率化に貢献します。



ブラケットと棚板は分離式

環境とUDへの配慮

- ① 棚板を薄くすることで、狭い棚板間隔で設置可能に。小物商品をたくさん陳列
- ② 棚板はローラー式のため、大量陳列しても軽い力でスムーズにスライド。ワンアクションで商品補充や前出し作業がしやすい
- ③ ブラケットと棚板は分離式で、軽くてかさばらず、女性店員でも容易に棚の移設が可能
- ④ 棚板とブラケットの組み誤り防止機能や、スライド防止ラッチによる地震対策など安全面にも配慮

働き手不足の時代を迎えて、店舗運営の効率化に力を入れる企業が増加しています。スライド棚板は、商品の補充や前出し作業がしやすく効率化につながることから、採用する店舗が増えています。

今までのスライド棚板は、棚板の間隔が広くなり、小さな商品向けの棚割りに適していませんでしたが、今回の「KZスライド棚板」では専用ブラケットを採用し、棚板間隔を狭くすることができました。

また、棚板は工具を使わずに容易に着脱可能で、女性店員一人でも棚の組み換え、商品の配置替えが簡単にできます。

たくさんの商品がきれいに並ぶお店は、買い物が楽しくなるはず。「KZスライド棚板」で、店舗運営の効率アップだけでなく、来店したお客様にも喜んでいただけるようなお店が増えて欲しいと思います。

VOICE)))



タテヤマアドバンス社
商業施設開発部 特需設計課
寺澤 克俊

社会から評価を受けた商品

2017年度グッドデザイン賞

- ビル用基幹サッシ「MTG-70R」
- アルミモダンインテリアシステム「AMiS」手すりユニット
- 機能ポール「ファノーバ」

● ビル用基幹サッシ「MTG-70R」

「MTG-70R」は、子供から高齢者まで安心して快適に暮らせる住まいづくりに貢献するため、窓の開閉のしやすさ、ケガ・つまずき・転落事故の防止など、安全・安心に配慮したビル用基幹サッシです。

引違い窓などのスライド系窓種には障子脱落防止機構を標準装備し、安全・安心機能を充実させました。また、ドアを閉めた状態で自然の風を室内に採り込むことができる採風機構付かまちドアや、一定の角度で障子が固定されるため安全にガラス外面の拭き掃除ができる清掃モード付すべり出し窓などをラインアップしています。

● アルミモダンインテリアシステム「AMiS」手すりユニット

「AMiS」は、アルミの素材を活かした飽きのこないシンプルなデザインが特長のインテリアシリーズです。

“空間に溶け込む”をコンセプトに開発した「手すりユニット」は、ユニットの構成要素である「手すり」「支柱」「パネル」を可能な限り自然に結びつけることで、全体がひとつの“まとまり＝背景”として見える、連続性のあるデザインを実現しました。

● 機能ポール「ファノーバ」

「ファノーバ」は、表札やポスト、インターホンなど門まわりに必要なアイテムを1つに集約したスマートなフォルムの機能ポールです。

施主様にもドライバー1本で簡単に表札交換が可能な構造で、ネームシール表札やさまざまな素材から選べる塗装文字表札など、お好みに合わせて交換できます。

また、ベーシックなデザインと木調色のバリエーションが幅広い住宅スタイルに調和します。

第11回キッズデザイン賞

● ビル用基幹サッシ「MTG-70R」

● ビル用基幹サッシ「MTG-70R」

受賞部門：子どもたちの安全・安心に貢献するデザイン部門

子供から高齢者まで、安心して快適に暮らせる住まいづくりに貢献するため、窓の開閉のしやすさ、ケガ、つまずき、転落事故の防止など、安心・安全に配慮したビル用基幹サッシです。また、万が一のガラス障子や網戸の脱落による事故から子供を守るべく、脱落防止にも配慮しました。

GOOD DESIGN AWARD
2017年度受賞



ビル用基幹サッシ「MTG-70R」



アルミモダンインテリアシステム「AMiS」手すりユニット



機能ポール「ファノーバ」



ビル用基幹サッシ「MTG-70R」

KIDS
DESIGN
AWARD
2017

地域社会とともに(1)

三協立山グループは、地域社会の一員として、社会貢献活動やコミュニケーション活動など、地域との共生に向けた活動に積極的に取り組んでいます。

● 地域社会の一員として ●

工場見学

三協立山は、2014年4月から、富山県射水市内にある3工場で一般の工場見学者の受け入れを開始し、産業観光を本格化させてきました。これまでに、学校関係や協会団体、民間企業など、4,000人を超える方々に見学していただきました。

当社の工場見学は、作業ラインの間近を通るため、ダイナミックな迫力を感じられ、熱やにおいなども肌で体感できるところが特徴です。アルミサッシ製造工程ビデオのリニューアルを行い、よりわかりやすい見学内容になりました。

今後も引き続き積極的に見学者を受け入れ、地域の産業観光振興に貢献していきます。



円柱状のアルミビレットからアルミ型材を作ります

工場見学受付は、こちら

<http://www.st-grp.co.jp/company/factory.html>

海岸清掃活動

富山県射水市の六渡寺(ろくどうじ)海岸は、小矢部川と庄川の河口の間にあり、2つの川から流れ着く、ペットボトルや空き缶、プラスチック容器などのごみがたくさん溜まる場所です。

当社では、これらの2つの川の流域に本社・工場があることから、地域社会貢献のため、この六渡寺海岸の清掃を行っています。

今年度は2018年4月に、新入社員を含む22名のボランティア参加者で清掃活動を行いました。清掃前の海岸は、プラスチックの破片やビンなどたくさんのごみが散乱し、手のつけようがないくらいでしたが、1時間あまりの作業で43袋分のごみを集め、ごみのないきれいな海岸になりました。



43袋のごみを集めました

全社一斉清掃活動

三協立山グループの社会貢献活動の一環として、毎年『ごみゼロの日(5月30日)』にあわせて、全社一斉で事業所周辺の清掃活動を実施しています。その主旨は、社員一人ひとりがごみゼロ社会の実現に向けて、「ごみを出さない」「捨てない」または、「分別意識をもって資源として有効利用を図る」などの、環境保全意識の醸成です。

今年度は、全国で2,548名のボランティア参加者がありました。今後も、事業所周辺の清掃活動を行い、地域の環境美化を図ります。



事業所周辺の清掃活動を行いました

地域社会とともに(2)

「富山マラソン」ランナーへ給水ボランティア

2017年10月、「富山マラソン2017」は県民参加型のフルマラソン大会として開催されました。県内外から参加した約13,000人のランナーへ、当社から従業員31名が給水ボランティアを務めました。スタートから5km地点の給水所で給水サポートと、一緒に大きな声援も送りました。

当社従業員もランナーとして多数参加し、沿道からの温かい声援を受けました。



ランナーへ給水サポート

公共用歩行車「シェアウォーカー」を寄贈

2017年8月、富山県朝日町役場において、当社が寄贈した公共用歩行車「シェアウォーカー」の贈呈式が行われました。

朝日町は高齢者が元気に生きがいを持って暮らせる高齢者福祉の促進に注力しており、町内施設での高齢者の利便性を高めることを目的に、「シェアウォーカー」を購入されました。

当社は台数を増やすことで、より多くの方にご利用いただけるように2台を朝日町に寄贈しました。



朝日町に寄贈

野球BCリーグ戦「震災遺児育英支援冠試合」

2017年8月、当グループがオフィシャルスポンサーとして応援している富山GRNサンダーバーズのBCリーグ戦を「震災遺児育英支援冠試合」として開催しました。当日は1,255人が来場し、チームに声援を送りました。これにあわせ、当グループより来場者数×100円を「あしなが育英会」へ寄贈しました。



野球BCリーグ戦開催

献血の実施

当グループは、毎年富山県赤十字血液センターが実施する献血活動に協力しています。

さまざまな社会貢献活動の中でも、献血は身近で人の生命に関わる大切な問題であると認識しており、従業員に対して自主的かつ積極的な参加を呼びかけています。

2017年度献血実績

	2017年 8月	2017年 12月	2018年 4月	計
受付者数	206名	240名	236名	682名
400ml献血者数	184名	222名	218名	624名

地域社会とともに(3)

なつやすみ宿題応援企画

「地元の方々にもっと気軽にショールームに足を運んでもらいたい」「小学生の夏休みの宿題を通して親子の方々と交流を深めたい」と企画を始めて4年目を迎えました。

企画1 なつやすみ親子工作教室

2017年7月、高岡ショールームにおいて、本社近隣の小学校児童を招いて「なつやすみ親子工作教室」を開催しました。238名(92組)の親子が、木の実や枝、貝殻など自然の材料を使い、夏休みの宿題「アイデア工作」に取り組みました。

新たな試みとして、ショールーム内を巡る「親子クイズラリー」も実施し、商品への興味を広げてもらいました。



なつやすみ親子工作教室の様子

企画2 自由研究応援企画

2017年8月、高岡ショールームにおいて、子供たちに自由研究のまとめ方を学んでもらいながら、「アルミサッシ」にも興味をもってもらおうと開催しました。富山県内の小学生95名(37組)の親子は、アルミサッシの製造工程をビデオで学んだり、工場の人にアルミサッシづくりのポイントを質問しました。

ホームページ上に開設した子供向けサイトにある「自由研究のまとめ方」も参考にしながら、自由研究制作に取り組みました。



自由研究応援企画の様子

富山県県土美化推進功労者表彰受賞

射水工場は2002年より射水市のアダプト・プログラムに参加してきました。

2018年4月、会社周辺および新港臨海工業地帯の道路清掃に加え、側溝の清掃活動を行うなど、周辺地域の環境美化に貢献したことで、富山県県土美化推進県民会議より県土美化推進功労団体として表彰されました。



表彰式の様子

消防競技大会

2017年8月、「第47回高岡市自衛消防隊消防訓練大会」が開催されました。当社からは4種目に参加し、2種目で次勝・敢闘賞になるなど、日頃の訓練の成果を発揮しました。

2017年9月、「第11回射水市消火技術競技会」が開催されました。当社からは、射水工場、新湊工場、奈呉工場の3事業所が参加しました。各事業所は日頃の訓練の成果を発揮し、優秀な成績を収めました。



高岡市自衛消防隊
消防訓練大会



射水市消火技術競技会

お客様とともに(1)

● 製品安全と品質向上に関する基本方針 ●

三協立山グループは、「お得意先・地域社会・社員の協業のもと、新しい価値を創造し、お客様への喜びと満足の提供を通じて、豊かな暮らしの実現に貢献します」を経営理念として掲げ、商品・サービスをはじめとするさまざまな企業活動を通じて、人々が暮らす快適な空間と満足される生活づくりに貢献していくことが使命であると考えています。

当グループでは、これまで開発・製造・販売する製品の安全・安心への取り組みを進めてきました。より一層、お客様に安心してお使いいただく製品をご提供するために、自主行動基準として「製品安全宣言」「品質向上宣言」「製品安全と品質向上に関する行動基準」を定め、グループ各社のすべての活動において製品の安全性確保を最優先に、企業活動を行っていきます。

製品安全宣言

私たちは、お客様に安心してお使いいただける安全な製品を提供するため、製品の安全性確保を徹底して追求します。

品質向上宣言

私たちは、さらに上の品質を追求し、お客様に「選ばれ」「喜ばれ」「必要とされる」企業を目指します。

製品安全と品質向上に関する行動基準

1. 法令遵守

- 製品の安全性確保及びお客様の安全確保に関する法令や安全に関わる基準、品質に関する規制要求事項を遵守します。
- 従業員に対して、関係法規、社内規程、その他必要事項に関する教育を実施し、周知徹底を図ります。
- 法令や安全に関わる基準、品質に関し定期的に監査し、維持管理します。

2. 製品安全性の確保

- 製品安全を確保する体制の整備と継続的な改善活動により「お客様」と「製品安全の確保」を優先する企業風土を醸成します。
- リスクアセスメントを通じてお客様目線の安全設計の実施に取り組むとともに、適切な品質管理を実施します。
- 製品を安全に正しくご使用いただくため、取扱説明書、製品本体等に誤使用や不注意による事故防止に役立つ注意喚起や警告表示及びお手入れ方法等の情報を正確で分かり易く表示します。
- 流通段階で製品の組立、施工を行う関係事業者に必要な情報を提供し、安全性確保の啓発・指導を行います。

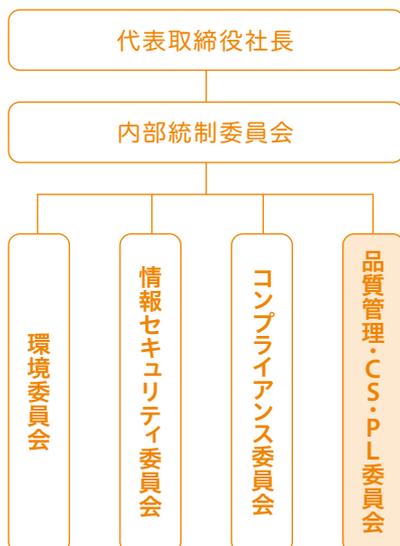
3. 品質向上

- 製品の企画・開発・設計から生産・出荷・組立・施工まで各段階におけるリスク分析とその低減に努めます。
- 製品品質とその管理状況を定期的に確認し、品質管理体制の改善活動を継続します。

4. 事故発生時の対応

- 製品事故が発生した場合、速やかに情報を収集して処理対応を行うとともに、法令に基づき所轄官庁へ報告します。
- 事故原因を速やかに究明し、安全上の問題があると判明したときは、適切な方法でお客様に告知します。
- 危害の発生、拡大を防止するため、製品回収、修理等必要な措置の実施と、再発防止を徹底します。

● 品質管理体制(組織図)



● 活動内容

- 品質管理委員会の活動
- 三協立山グループ品質連絡会の活動
- 商品開発時のリスクアセスメントの導入によるリスク検証
- 生産時の4M※1 変化点管理の導入とPDCAサイクル※2の活用

※1 4M: ●人(Man) ●機械(Machine) ●材料(Material) ●方法(Method)
工程内で大量の不具合が発生した場合、このいずれかが変化している事が多い

※2 PDCAサイクル:
「計画をたて(Plan)、実行し(Do)、その評価(Check)にもとづいて改善(Action)を行う、という工程を継続的に繰り返す」仕組み

品質管理委員会	製品安全と品質向上推進
CS委員会	顧客満足向上推進
PL委員会	製品に関わる事故処理と再発防止

※ CS(Customer Satisfaction)
= 顧客満足
※ PL(Product Liability)
= 製造物責任

お客様とともに(2)

三協立山グループは、お客様への喜びと満足の提供こそが、豊かな暮らしの実現に貢献できるものと認識し、従業員一人ひとりが「CSポリシー」の実践を心がけ、日々の業務に取り組んでいます。

● お客様にご満足いただくために ●

当社は、信用と信頼を大切にしています。信用と信頼は、日頃の企業活動において消費者様やお得意様を含めた全てのお客様の期待に応えることで、少しずつ醸成されていくものと認識しています。そして、企業活動の一つひとつがお客様満足につながることを念頭において、従業員一人ひとりが日々の業務に取り組んでいます。

顧客満足に関する活動方針は、「CS委員会」を通じて、品質向上に関する活動方針は「品質管理委員会」を通じて決定されて取り組んでいます。当社のカンパニー部門の三協アルミ社、三協マテリアル社、タテヤマアドバンス社と、グループ内のST物流サービスとの間では定例の連絡会を設け、品質の向上に関する活動の連携を図っています。また、消費者様に安心してご使用いただけるよう、製品の安全に関わるPL（製造物責任）対応として、「PL委員会」を設置し、前出の2つの委員会と連携をとりながら、信用と信頼の維持向上に努めています。

※体制図は、P.21「品質管理体制(組織図)」参照

● CSポリシー ●

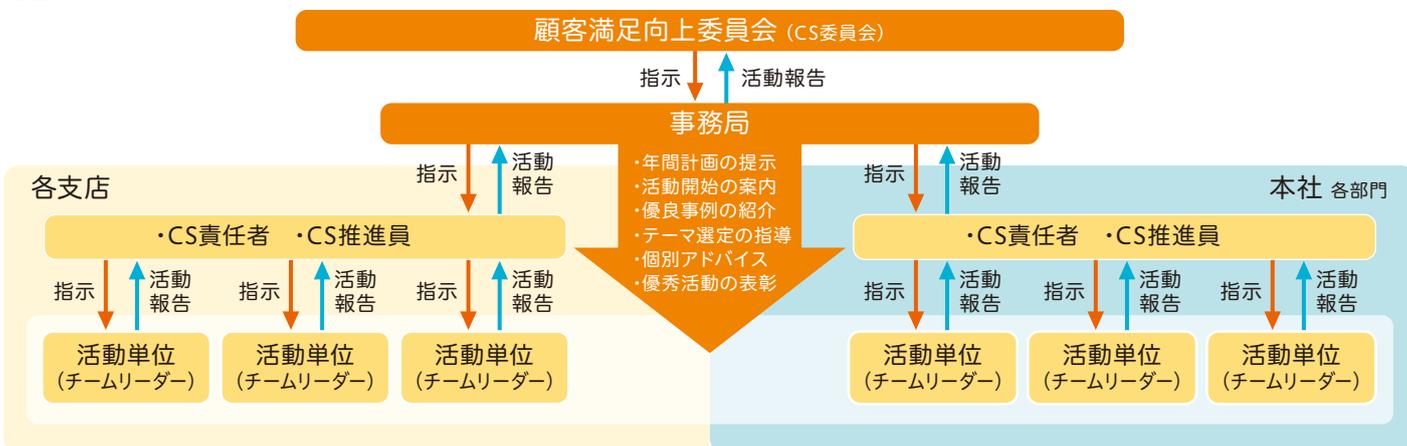
CSポリシーは、経営理念、行動指針とともに携帯用カードとして当グループ内に勤務する役員・社員・派遣社員など全員に配布され、個々人の指針としています。

- お客様満足を第一とし、“常にお客様の立場・視点で考え行動”しよう。
- お客様の意見に耳を傾け、“期待や問題点をしっかりと把握”しよう。
- お客様の満足実現に向け、“創意・工夫で改善、提案”しよう。
- お客様の“満足こそが仕事の成果”であると心がけよう。
- お客様の満足を、“共にわかち合えることに感謝”しよう。

私たちは常にこの指針に従い、
日常の企業活動の中でお客様満足の
向上に努めていきます。

● CS活動状況 ●

当社では、「CSポリシー」の実践を目的に「CS単位活動」を行っています。この活動は、日々の業務をお客様の立場・視点で考え行動し、CSを実践していく活動です。2002年より開始し、2017年度は、258単位（チーム）が参加しました。この取り組みを通じて、日頃の業務の中に「CSポリシー」をより一層根付かせるとともに、グループ内へのベストプラクティス（優秀事例）の水平展開を図ることで、「お客様満足」を目指します。



お客様とともに(3)

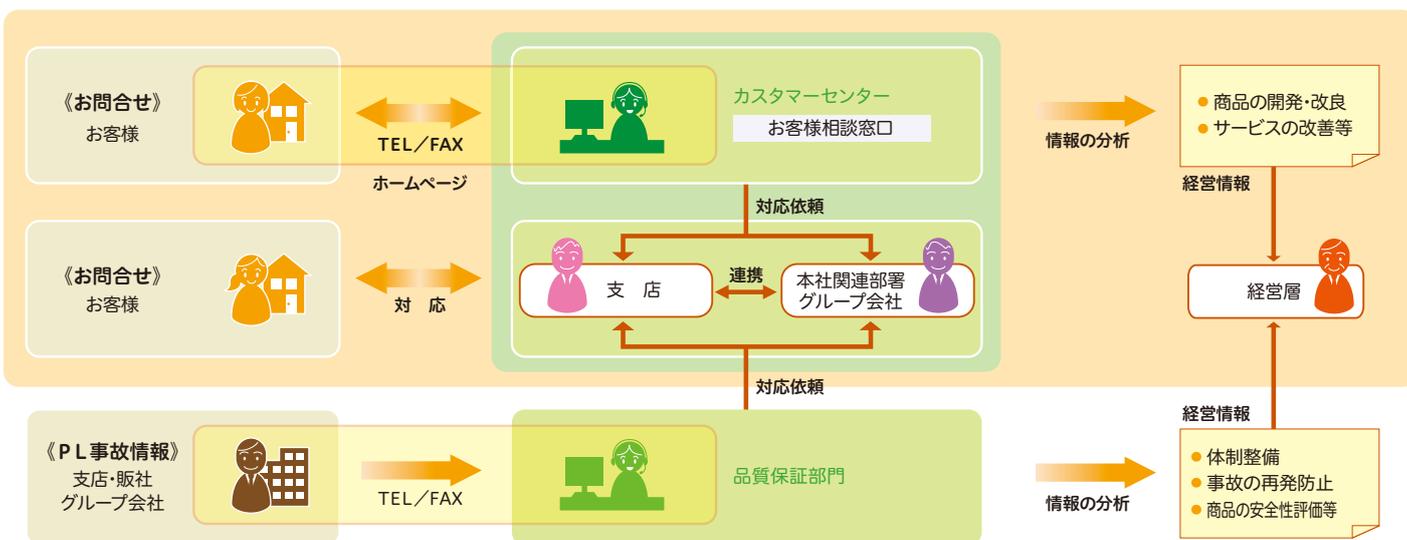
● お客様の声(VOC※)を生かすために ●

当社は、消費者様やお得意様を含めたお客様からの相談窓口としてカスタマーセンターを設置し、電話、FAX、ホームページなどによりお問合せをいただけるようにしています。相談窓口では、会社を代表する窓口として信用と信頼を担っているという自覚をもち、適切な対応を心がけ、丁寧に迅速な対応に努めています。

また、「お客様満足第一」で一つひとつのお問合せを真摯に受け止め、日々お客様から寄せられる「お客様の声(VOC)」を系統立てて整理・分類し、さまざまな角度から分析を行い、課題を抽出しています。これらの課題を経営情報として経営トップや関係部署へフィードバックを行い、商品の開発・改良およびサービスの改善などに役立てています。「消費者満足」「顧客満足」のさらなる向上を目指し、ホームページやカタログなどの情報提供ツールをよりわかりやすく、ニーズに応えられる情報となるよう改善に努め、顧客接点の強化に取り組んでいます。

※VOC(Voice of Customer) = お客様の声

● お客様情報の処理フロー



● 安心してご使用していただくために ●

当社は、製品の安全性確保とおお客様の安全確保に関する法令や品質に関する基準を遵守しています。

開発段階では、リスクレベルの「見える化」による安全性の評価(R-Map※を用いたリスク評価)を行い、使う人の立場に立って、より使いやすい、安全な商品づくりに取り組んでいます。また、取扱説明書や注意ラベルに限らず、カタログの記載内容については、景品表示法、消費者基本法などの各種法規に準拠しているかどうか、さらに、所属工業会のガイドラインに沿っているかどうかについて事前にチェックして、お客様に必要な情報を明確でわかりやすく表示するよう取り組んでいます。

当社製品に関わる事故が発生した場合、すみやかに必要な関連情報を収集して、お客様の視点に立った迅速で適切な事故処理を行うとともに、重大な製品事故については、消費生活用製品安全法などの法令に基づいて、所轄官庁へ報告を行います。

また、事故の原因究明と再発防止を徹底し、製品の安全確保に努めていきます。

※R-Map: 危害の程度と発生頻度から、リスクの大きさを評価する手法の一つ。

株主の皆様とともに

三協立山は、グループ全体の経営基盤の強化と収益力向上によって、継続的な企業価値の向上を図り、株主の皆様のご期待に応えていきたいと考えています。

● IR※活動 ●

IR活動は、広報・IR部が担当しています。株主、投資家をはじめとするあらゆるステークホルダーの皆様へ、当社グループの企業活動に対する理解を深めていただくとともに、適正に評価をしていただくため、企業情報を適時・適切に開示しています。

当社ホームページには、決算短信、決算説明資料、有価証券報告書(四半期報告書)などの決算開示資料に加え、半期ごとに株主通信などを掲載し、投資家の皆様がいつでも容易に閲覧できるようにしています。

機関投資家様に向けては、期末決算後に決算説明会を開催しています。また、機関投資家様との個別ミーティングを、四半期ごとの決算時や要望に応じて適宜開催しています。2017年度は国内外で約80回の個別ミーティングを実施しました。ほか機関投資家様のご要望に応じた工場視察の受入なども適宜行っています。

個人投資家様に向けては、会社説明会を適宜開催しています。2017年度は東京、名古屋、大阪などであわせて4回開催し、約400名の個人投資家様にご参加いただきました。

IR活動を通じてステークホルダーの皆様からいただいたご意見や助言などは、適宜、経営幹部にフィードバックし、今後の経営に活かすように努めています。

※IR(Investor Relations、インベスター・リレーションズ)：
企業が株主や投資家に対し、投資判断に必要な情報を適時、公平、継続して提供する活動全般

● 情報開示の考え方 ●

当社は、金融商品取引法などの諸法令ならびに東京証券取引所の定める有価証券上場規程(以下「上場規程」という)に準拠した情報開示に努めるほか、当社をより理解していただくために有効と思われる情報についても、迅速に開示します。

なお、上場規程に該当する情報は、同規程に従い、東京証券取引所の提供するTDnet(適時開示情報伝達システム)を通じて開示します。投資判断に影響を及ぼすと思われる場合は、その重要度および緊急性に応じて、適宜、適切な方法ですみやかに開示します。



機関投資家向け 決算説明会



個人投資家向け 会社説明会

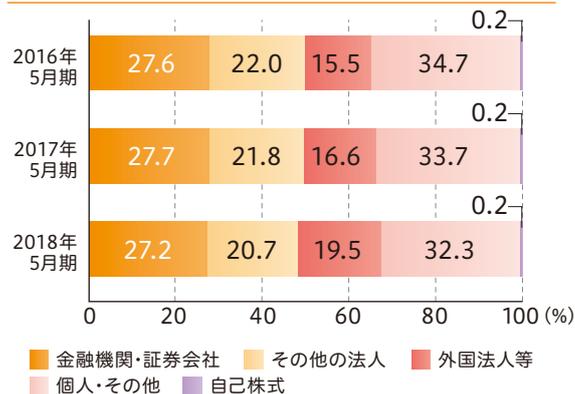
● 株主構成 (2018年5月31日現在)

発行可能株式総数	150,000,000株
発行済株式の総数	31,554,629株
株主数	19,504名

● 所有者別株式分布状況 (2018年5月期末)

区分	株式数	比率
政府・地方公共団体	0	0.0
金融機関	8,267,468	26.2
証券会社	327,419	1.0
その他の法人	6,545,202	20.7
外国法人等	6,140,310	19.5
個人・その他	10,202,205	32.3
自己株式	72,025	0.2
合計	31,554,629	100.0

● 株主構成の推移



従業員とともに(1)

三協立山は、お客様へ喜びと満足を提供するために、新しい価値を創造できる人材の育成と、安全で健全な働きやすい職場づくりを目指しています。

● 働き方改革の推進 ●

三協立山グループの持続的な成長を支えるために、優秀な人材の確保・育成、高齢者、女性、障がい者など多様な人材の雇用拡大・活躍を進めるとともに、仕事と生活の両立を目指して、長時間労働の削減、生産性の向上に取り組んでいます。

● ダイバーシティの推進 ●

ダイバーシティ推進の専任部署(多様性推進課)が中心となり、多様な人材が活躍できる風土作りに向けて、さまざまな取り組みを行っています。

女性従業員の活躍推進

女性活躍に向けて、次のリーダーを目指す中堅女性従業員を対象に、初年度キャリアデザイン研修、翌年、翌々年にフォローアップ研修を実施し、女性従業員の自立的キャリア形成をサポートするための研修を行っています。

障がい者雇用と活用

障がい者雇用については、企業の社会的責任として、法定雇用率(2.2%)を遵守すべく、更なる雇用拡大と活用を進めていきます。今年度の新入社員研修では、健常者と障がい者がともに研修を受講しています。

高齢者の就業促進

定年時継続雇用率は約70%、1年ごとの継続雇用更新率は90%と多くの高齢者が活躍しています。また、65歳を超えた社員の雇用にも取り組んでいます。

● ワーク・ライフ・バランスの推進 ●

ノー残業強化デイ職場パトロールの実施

従業員の心身の健康を保持するため、毎週水曜日と金曜日を全社員残業ゼロの日と決め、職場パトロールを実施しています。管理職者が18時～18時半に各職場を巡回し、残業者がいれば帰宅を促しています。

● 従業員教育 ●

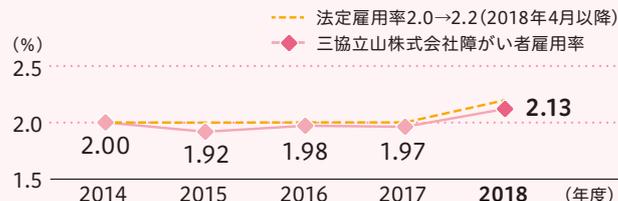
新入社員の早期戦力化、職場定着を目的にチューター研修を初め、入社から3年間にわたり、段階的にフォローアップする研修を行っています。

また、階層別に必要能力の組み込みを図るべく、各種研修を企画・実施し、事業環境を取り巻くさまざまな課題を的確に解決できる人材の育成に注力しています。あわせて、次代のビジネスリーダーの早期創出に取り組んでいます。



フォローアップ研修

● 障がい者雇用率



有休の計画取得

四半期休暇やフレックス休暇などの有休を年度初めに申請し、計画的に取得できるよう職場全体で取り組んでいます。

勤務時間選択制度の実施

勤務時間の合理的活用による長時間労働の削減や、仕事と生活の両立を推進するために、勤務時間を3パターンの中から選択可能としています。現在、約500名の社員が利用しています。



新入社員研修

従業員とともに(2)

● 新入社員の採用 ●

企業の安定的な成長・発展に向け、積極的に新入社員の採用を行っています。

『広い視野を持ち、好奇心とチャレンジ精神、行動力を備え、激動する時代にも柔軟に対応できる人材』の採用を行っています。

● 遺児育英年金制度 ●

遺児育英年金制度は、従業員が在職中に死亡(または、高度の障がいとなり)退職した場合に、遺児(子供)に対して奨学資金を援助する制度です。この制度は、従業員が安心して働くため労働組合と共同で行っている福利厚生施策で、子供が18歳(高校卒業)になるまで援助するものです。

労働安全衛生について

● 基本理念 ●

従業員の安全と健康は、企業の存立の基盤をなすものであり、安全衛生の確保は、企業の社会的責任です。三協立山グループでは、人間尊重を基本理念とし、「安全第一」と「健康保持増進」を基本に全員参加で安全衛生活動を展開します。

● 健康活動 ●

従業員の健康状況を把握するための定期健康診断は、健康活動の基本であり、疾病の早期発見に重要な意義があります。健康診断結果をもとに、再受診の勧奨や保健指導などのフォローを行っています。近年、メタボリックシンドロームやその予備軍の従業員が増加していますので、2017年度からはBMI値が一定以上の方が体重5%低減に取り組む「チャレンジ5%」を展開し、健康管理への意識改善を行っています。

また、長時間労働による健康障害の防止を目的に、長時間労働者の産業医による面接指導の実施や時間外労働の削減を目的とした業務内容の再配分などに努めています。

一方で、メンタルヘルス不調者が増加の傾向にあり、保健スタッフに相談できる体制や、社外の24時間対応カウンセリングサービスを整備しています。さらに2016年度以降ストレスチェックを実施し、労働者自身のストレスへの気づきを促したり、職場環境改善につなげるによりメンタルヘルス不調者の未然防止に努めています。

● 自己啓発支援 ●

通信教育講座の受講奨励や社内e-ラーニングなどの自学手段の提供、公的免許・資格取得に対する報奨金支給など、従業員の自己啓発やキャリア形成をサポートしています。

● 従業員満足度調査 ●

従業員のモチベーションを、会社の生産性や業績の向上につなげることを目的に、毎年「従業員満足度調査」を実施しています。調査結果は、人事・労務・教育などに関する全社的施策の判断材料にするとともに、社内のポータルサイトなどで公開し、各職場の環境改善に役立てています。

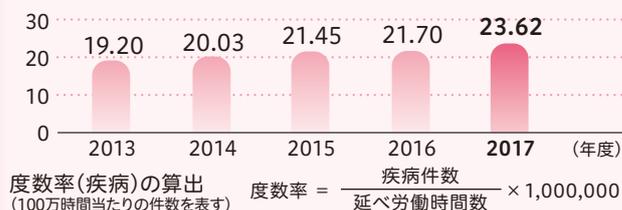
● 安全活動 ●

「安全は全てに優先する」を基本に、職場の危険源低減活動として「リスクアセスメント」、「5S活動」、「ヒヤリハット活動」や「労使安全パトロール」などを展開し危険源の排除に取り組んでいます。また、安全に強い人づくり推進活動として「危険予知訓練」、「各種安全衛生教育」などを実施し、安全意識の向上と人材育成を図っています。不安全行動による労働災害防止のため、危険を危険として気づく感受性を鋭くする訓練と作業行動の要所で「指差し呼称」による安全確認の徹底運動を展開しています。

● 休業度数率(災害)



● 休業度数率(疾病)



環境基本理念

三協立山グループは、経営理念・行動指針に基づき、環境基本理念、環境方針などを展開し、環境問題については最重要課題として位置付け取り組んでいます。

環境スローガン

創ろう美しい地球を

環境基本理念

三協立山グループは、地球環境問題を最重要課題として認識し、全ての事業活動を通じ地域や地球の環境保全に取り組み、人と自然にやさしい豊かな社会づくりに貢献いたします。

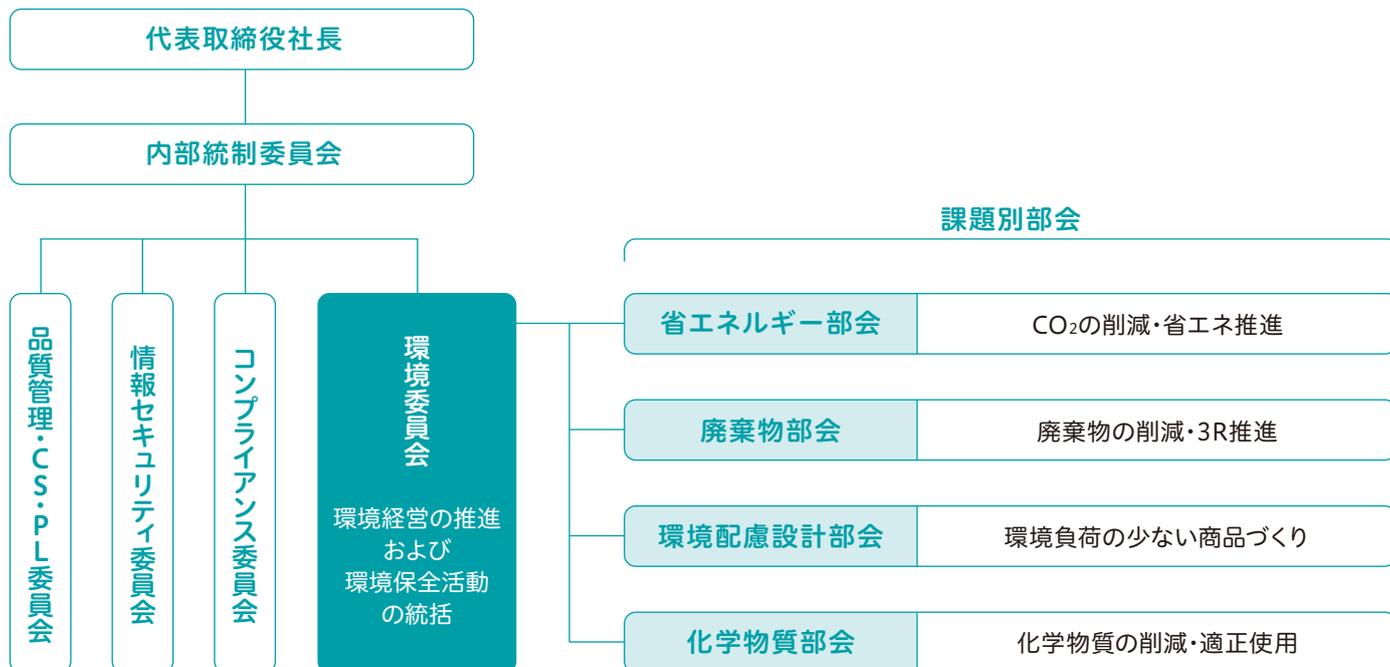
環境方針

- ① 事業活動における環境負荷低減
- ② 環境配慮商品の充実・推進
- ③ 環境経営および環境リスクへの対応
- ④ 環境コミュニケーションの促進

● 環境推進体制 ●

三協立山グループの環境経営を推進し、環境保全活動を統括する組織として、「環境委員会」を設置しています。当委員会は、内部統制委員会の専門委員会の一つとして位置付けており、環境経営に関する方針・方向性の策定や環境保全に関する重要事項の審議等を行います。

また、特に重要な環境政策については、課題別部会を設けて具体的に展開しています。



主要指標一覧

[2017年度]主要な環境パフォーマンス指標などの推移

項目	報告対象期間	2017年度			集計範囲	本報告の掲載ページ
		2015年度	2016年度	2017年度		
総エネルギー投入量	(千GJ)	4,336	4,362	4,347	三協立山	P31
主要原料投入量	(千トン)	158	160	163	三協立山	P28
水資源投入量	(千トン)	10,213	10,182	10,363	三協立山	P28
温室効果ガス排出量	(千トン-CO ₂)	275	276	276	三協立山	P31
産業廃棄物排出量	(千トン)	26.6	26.3	24.9	三協立山	P33
産業廃棄物埋立量	(千トン)	1.1	0.8	0.6	三協立山	P33
PRTR対象物質取扱量	(トン)	514	534	477	三協立山、関連会社	P34
化学物質トルエンの排出量	(トン)	48	47	37	三協立山、関連会社	P34
化学物質キシレンの排出量	(トン)	61	63	57	三協立山、関連会社	P34
総資産	(百万円)	254,630	254,139	271,017	三協立山	P45
連結売上高	(百万円)	332,168	320,817	328,409	三協立山	P45

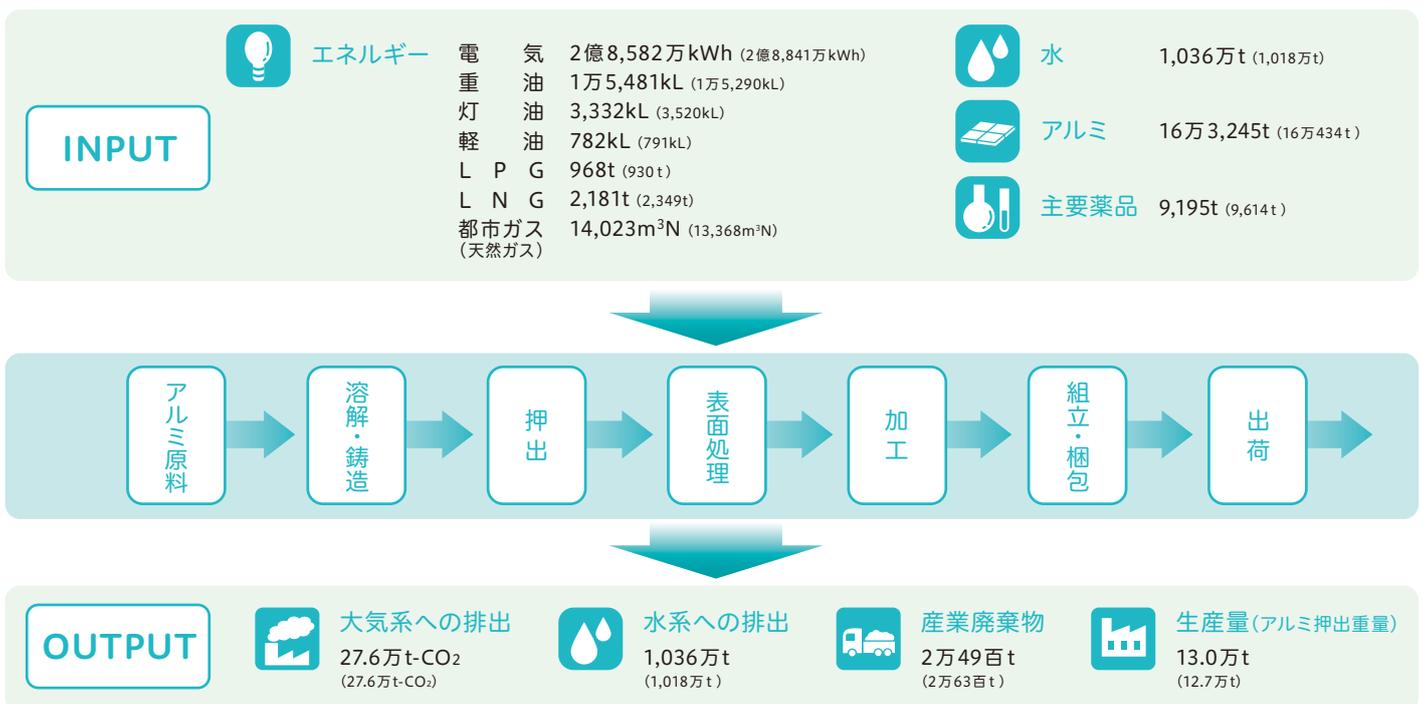
※温室効果ガス排出量:各電力会社の2013年度実排出係数にて算出

※主要原料投入量、水資源投入量、PRTR対象物質取扱量、化学物質トルエンの排出量、化学物質キシレンの排出量の集計期間は4月1日～翌年3月31日

● 環境とのかかわり ●

当グループでは、主にリサイクルが容易なアルミニウムを材料とし、エネルギーや水、化学物質を使用して商品づくりを行っています。その過程として、資源の消費、廃棄物やCO₂の発生という形で、環境に負荷を与えています。

このような負荷を低減するためのさまざまな活動を通じて、地域や地球の環境保全に取り組んでいます。



※()内は2016年度実績
※集計範囲・・・三協立山(株)

環境行動目標と実績

中期および2017年度の環境行動目標と実績は、下表のとおりです。

中期および2017年度の目標と2017年度の実績

環境方針	取り組み項目	中期環境行動目標 (2015年度～2017年度)	2017年度 目標	2017年度 実績	自己評価	掲載ページ
事業活動における環境負荷低減	地球温暖化対策 (省エネルギー対策)	○エネルギー使用量を2014年度比 2017年度生産量原単位全体で3%削減	○3%削減	○2.4%削減	☁	P31
		○CO ₂ 排出量を2014年度比 2017年度生産量原単位全体で3%削減	○3%削減	○2.3%削減	☁	P31
		(長期目標) ○CO ₂ 排出量を1990年度比 2020年度 総量で20%削減	○18%削減	○17.3%削減	☁	—
		○輸送段階におけるCO ₂ 排出量を 2014年度比 2017年度輸送量(トンキロ)原単位 全体で3%削減	○3%削減	○1.2%削減	☁	P32
	廃棄物対策	○工場部門の産業廃棄物 各年度のリサイクル率98%以上	○98%以上	○98.4%	☀	P33
		○工場部門の産業廃棄物排出量を 2014年度比 2017年度3%削減	○3%削減	○8.7%削減	☀	P33
	省梱包の推進	○梱包副資材の使用量 各年度 2014年度より削減	○削減	○0.7%削減	☀	P33
化学物質対策	○PRTR対象物質の使用量を2014年度比 2017年度3%削減	○3%削減	○11.8%削減	☀	P34	
環境配慮商品の充実・推進	グリーン調達	○事務用品のエコ商品購入率 2017年度までに80%以上に向上 ○グリーン調達ガイドラインの継続運用	○80%以上	○94%	☀	—
	環境配慮商品の開発推進	○次世代省エネ基準義務化をクリアする高断熱商品の開発と環境配慮商品の強化	○次世代省エネ基準義務化をクリアする高断熱商品の開発と環境配慮商品の強化	○断熱6商品 ○自然採風5商品	☀	P12～14
	LCAを適用した環境配慮設計の推進 (LCA:ライフサイクルアセスメント)	○顧客視点による環境配慮設計の新指標策定	○顧客視点による環境配慮設計の新指標策定	○新指標の計算ルール策定	☁	—
環境経営および環境リスクへの対応	環境管理、監視体制の強化	○法令違反・重大環境事故の発生件数0件	○法令違反・重大環境事故の発生件数0件	○法令違反・重大環境事故の発生件数 0件	☀	P37
	産業廃棄物管理の徹底	○廃棄物処理法違反の発生件数 0件	○廃棄物処理法違反の発生件数 0件	○廃棄物処理法違反の発生件数 0件	☀	P37
環境コミュニケーションの促進	情報開示 (CSR報告書発行)	○年1回の発行 ホームページで公開	○年1回の発行 ホームページで公開	○「CSR報告書2017」の発行 ホームページで公開	☀	—
	生物多様性の保全	○ツインリーフの森づくり活動の推進	○ツインリーフの森づくり活動の推進	○森づくり活動を実施	☀	P5～6
	地域社会との共生、関係団体への参画	○関係諸団体への継続的な参画 ○環境保全活動への参画	○関係諸団体への継続的な参画 ○環境保全活動への参画	○関係諸団体への参加 ○環境保全活動への参画	☀	P18 P35
	環境教育	○環境家計簿およびグリーンカーテンコンテストの参加推進	○環境家計簿およびグリーンカーテンコンテストの参加推進	○環境家計簿およびグリーンカーテンコンテストの参加推進	☀	P36

☀ 目標達成 ☁ 目標未達成

新中期環境行動目標

新中期環境行動目標は、下表のとおりです。

新中期環境行動目標

環境方針	取り組み項目	新中期環境行動目標(2018年度～2020年度)
事業活動における環境負荷低減	地球温暖化対策 (省エネルギー対策)	○エネルギー使用量原単位を各年度、前年度比で1%以上削減
		○CO ₂ 排出量原単位を各年度、前年度比で1%以上削減
	廃棄物対策	○産業廃棄物排出量原単位を各年度、前年度比で1%以上削減
		○産業廃棄物のリサイクル率を各年度98%以上継続
化学物質対策	○PRTR対象物質の中でトルエンなどVOC5物質の排出量原単位を各年度、前年度比で1%以上削減	
環境配慮商品の充実・推進	グリーン調達の推進	○調達先へ「環境経営の評価チェックリスト」を実施し、評価点を50点以上
	環境配慮商品の開発推進	○省エネ基準義務化をクリアする高断熱商品の開発と環境配慮商品の強化
	LCAを適用した環境配慮設計の推進	○新規自社開発商品の「環境配慮商品」開発比率を各年度100%
環境経営および環境リスクへの対応	環境管理、監視体制の強化	○法令違反・重大環境事故の発生件数を各年度0件
	産業廃棄物管理の徹底	○廃棄物処理法違反の発生件数を各年度0件
環境コミュニケーションの促進	情報開示(CSR報告書発行)	○CSR報告書の年1回の発行およびホームページへの情報公開
	生物多様性の保全	○家族参加型の森づくり活動の継続
	地域社会との共生	○環境教室および清掃活動の実施
	環境教育	○従業員への環境教育の実施

地球温暖化対策(省エネルギー対策)(1)

三協立山グループでは、地球環境問題を人類共通の最重要課題として認識しており、省エネ活動をはじめとする地球温暖化対策に継続的に取り組み、地道な活動を進めています。

● CO₂排出量とエネルギー使用量 ●

2017年度のCO₂排出量の総量は、2014年度比で0.9%(約2千t-CO₂)の削減となりました。これは、主に照明のLED化・設備のインバーター化に取り組んだことと日頃からの地道な省エネ活動などを実施したことによります。

生産量原単位について、CO₂排出量原単位は2014年度比で2.3%削減、エネルギー使用量原単位は2.4%削減となりました。

● 省エネルギー部会の開催 ●

省エネルギー活動の中期環境行動目標の達成に向けて、工場部門、物流部門および事務部門の改善を推進するために、年6回(7・8・10・12・4月)開催しています。改善成功事例については、水平展開を図っています。

● 省エネルギー研修会の開催 ●

2018年5月、省エネルギー活動の推進を図るため、研修会を実施しました。(一般財団法人)省エネルギーセンターより講師を招き、エネルギー管理担当者向けに「管理標準」の重要性を再認識する内容で研修を行いました。



省エネルギー研修会

● CO₂排出量と生産量原単位の推移



※算出根拠:地球温暖化対策の推進に関する法律に定められる排出係数による。(環境省平成22年3月改正)

※電力のCO₂換算係数は、2013年度の値を使用しています。2010年度の値を使用した場合、2017年度のCO₂排出量は対1990年比17.3%減となります。

● エネルギー使用量と生産量原単位の推移



※算出根拠 電 力:エネルギーの使用の合理化に関する法律施行規則
熱使用:資源エネルギー庁「エネルギー源別発熱量表」

※GJ:ギガジュール

● 生産量の推移



地球温暖化対策(省エネルギー対策)(2)

● 輸送部門でのCO₂排出量 ●

2017年度は、前年度から積載効率が改善し、CO₂排出量が減少し、2014年度比では、3.0%減(477t-CO₂減少)となりました。CO₂排出量の輸送量原単位は、2014年度比1.2%減少となりました。

● 輸送部門のCO₂排出量と原単位

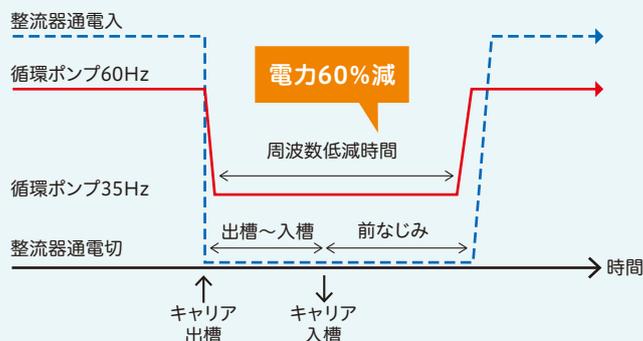


● 省エネルギー活動事例 ●

冷却盤ポンプインバーター化による電力使用量削減

冷却盤は主に冷却設備、アルマイト槽循環で使用する大容量ポンプの動力盤として使用しています。冷却盤付帯ポンプは、設備負荷の変化にかかわらず、回転数一定で運転していたので電力ロスがありました。今回、付帯ポンプをインバーター化し、負荷状態に合わせて適切な回転数で運転することで省エネを図りました。

● アルマイト処理工程



● 営業車のガソリン使用量削減 ●

全社有車を対象とした「エコドライブコンテスト」を実施し、燃費向上を競い合いました。また、低燃費車の導入も進めた結果、2017年度のガソリン使用量は2014年度比 17.2 % (210kl) 削減となりました。

● 営業車のガソリン使用量



● 節電活動 ●

2017年夏、当社は電力の使用抑制のため、以下の節電活動に取り組みました。

[生産拠点における節電対応策]

- 工場の一部押出・皮膜ライン等における勤務体制を見直し、休業日を現状の土曜・日曜から日曜・月曜にシフト実施(7月下旬～9月上旬)
- 工場内照明、空調及びコンプレッサー等関連設備の節電推進

[本社・各営業拠点における節電対応策]

- 全社クールビズ活動を継続実施(5月上旬～9月下旬)
- エアコン使用時の室内温度を28℃に設定
- 照明のLED化推進および不使用エリアの消灯を徹底
- 自動販売機の運転時間を短縮
- パソコンのモニター輝度を約60%ダウン
- 離席時のパソコン省電力モード活用推進と帰宅時のパソコン・プリンターの電源OFFの徹底

■ 全支店の節電活動実績(2017年7～9月)

- ・電力使用量(kWh)：
- 2010年度比 約19%削減(震災前と比較)

● 2017年度全支店の節電活動実績(電力使用量2010年度比)



廃棄物対策と省梱包の推進

● 廃棄物対策 ●

三協立山グループでは、生産工程から定常的に発生する産業廃棄物の排出量抑制とリサイクル率向上に取り組んでいます。

産業廃棄物排出実績

2017年度の産業廃棄物排出量は、2014年度比8.7%削減(2.4千t減)となりました。これは皮膜工程で発生する電着塗装廃液の排出量を削減したことなどによるものです。リサイクル率については、埋立処分されている汚泥の排出量削減などに取り組んだ結果、98.4%になりました。

ゼロエミッション達成状況

2017年度は14工場中12工場でゼロエミッション(リサイクル率97%以上)を達成しました。

PCB管理

当グループでは、PCBを含む電気工作物、安定器についてPCB廃棄物特別措置法に準拠して適正に処理、保管および管理をしています。

● 省梱包への取り組み ●

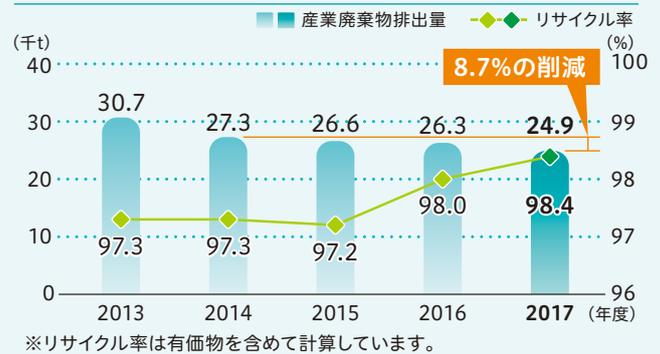
省梱包への取り組みとして、梱包資材の削減、梱包レスの推進、材質転換・統一化の3つの柱を掲げ、活動しています。

活動事例：型材養生シートの再利用

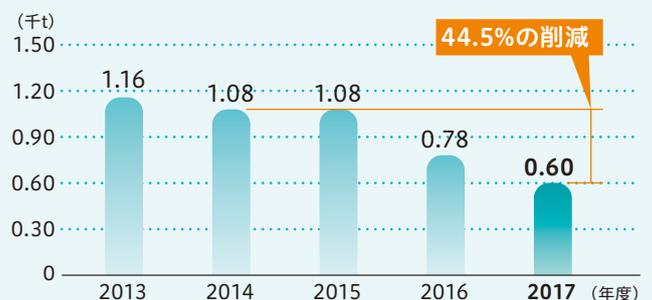
従来、射水工場では使用した型材養生シートをその都度廃棄していましたが、再利用可能なものは、社内用に再利用することにしました。

これにより、年間約19.7トンの廃棄物を削減することができました。

● 産業廃棄物排出量とリサイクル率の推移



● 産業廃棄物埋立量の推移



PCB管理対象機器台数一覧 (2018年3月31日現在) (単位:台)

拠点名	高濃度PCB廃棄物			低濃度PCB	
	保管			保管	使用中
	電気工作物	安定器	試薬	混入廃棄物 (分析サンプル 除く)	混入 電気工作物
新湊	0	0	0	0	7
福岡	0	0	0	3	3
氷見	0	0	0	1	0
射水	0	0	0	2	2
高岡	0	5	0	3	0
奈呉	0	0	5	0	6
横浜	0	1	0	0	0
三協立山本社	0	0	0	2	2
奈呉物流センター (本社管轄)	1	0	0	0	0
合 計	1	6	5	11	20

※上記集計表には、使用中の電気工作物、安定器で、PCB含有有無が未確認のものについては含まれていません。



再利用された型材養生シート

化学物質対策

三協立山グループでは、PRTR^{*}法対象物質の管理および使用量の削減に努めています。

※PRTR(Pollutant Release and Transfer Register：環境汚染物質排出・移動登録)

● 化学物質管理 ●

関連会社も含めた2017年度のPRTR法に基づく報告対象物質の取扱量の合計は、477.2tです。このうち、大気、水域への排出量は、取扱量の34.5%(164.5t)に相当し、その内の145.0tが大気に排出されています。(公共水域への排出量は19.5t)

大気排出量が多い物質は、塗装工程の溶剤であるトルエン、キシレン、エチルベンゼンの3物質で、大気排出量の85.5%(124.1t)を占めています。

以下にPRTR届出義務対象化学物質の排出量、移動量などを示します。

PRTR届出義務対象化学物質(関連会社含む)

集計期間：2017年4月～2018年3月

(単位：t/年 ただし、ダイオキシン類はmg-TEQ)

番号	化学物質名	主な用途	取扱量	排出量			移動量		消費量
				大気	水域	土壌	事業所外	下水道	
31	アンチモン及びその化合物	難燃剤	1.4	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	1.3
53	エチルベンゼン	製品塗装	36.0	29.7	0.0	0.0	0.0	0.0	6.3
80	キシレン	製品塗装	63.7	57.4	0.0	0.0	0.0	0.0	6.4
87	クロム及び3価クロム化合物	アルミビレットの原料に配合	18.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	18.0
186	ジクロロメタン	ラッピング接着	8.9	8.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
243	ダイオキシン類	—	—	466.0	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0
277	トリエチルアミン	製品塗装	7.5	7.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
296	1,2,4-トリメチルベンゼン	製品塗装	3.0	2.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1
297	1,3,5-トリメチルベンゼン	製品塗装	1.4	1.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
300	トルエン	製品塗装	66.6	37.0	0.0	0.0	0.0	0.0	29.6
308	ニッケル	表面処理	17.2	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	17.1
309	ニッケル化合物	表面処理	14.9	0.0	2.9	0.0	3.2	0.0	8.8
355	フタル酸ビス(2-エチルヘキシル)	塩ビの可塑剤	129.9	0.0	0.0	0.0	4.3	0.0	125.5
374	ふっ化水素及びその水溶性塩	アルミビレット製造時の溶湯除滓剤	9.3	0.2	2.1	0.0	0.0	0.0	7.0
405	ほう素化合物	表面処理	17.2	0.0	14.4	0.0	0.8	0.0	2.0
412	マンガン及びその化合物	アルミビレットの原料に配合	37.1	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	37.0
438	メチルナフタレン	各種炉燃料	29.3	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	29.2
448	メチレンビス(4,1-フェニレン)=ジイソシアネート	ラッピング接着、発泡ウレタン	15.7	0.0	0.0	0.0	0.3	0.0	15.4
合計			477.2	145.0	19.5	0.0	9.0	0.0	303.7

※上記集計表には、PRTR届出に必要な取扱量に達していない事業所の実績は含まれていません。

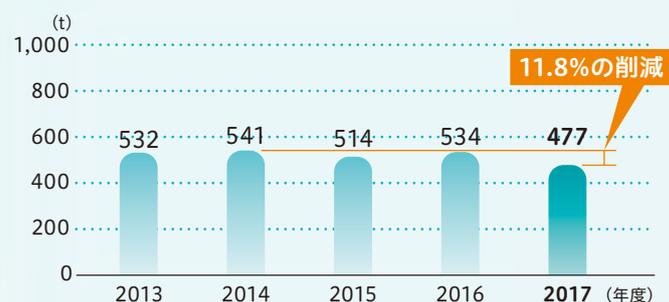
※事業場外への移動量：事業活動に伴って排出される産業廃棄物を、産業廃棄物処理業者に委託して場外へ移動する量

※消費量：対象物質が反応原料として消費された量、または製品に含有もしくは付着して場外に持ち出される量

● 化学物質使用量 ●

2017年度の化学物質使用量は、PRTR対象物質において、2014年度比11.8%(64t)の削減となりました。主な理由は、塗料使用機器の洗浄改善活動により、溶剤使用量を削減したことによるものです。

● PRTR該当物質使用量



環境コミュニケーションの促進(1)

三協立山グループは、環境保全活動や環境負荷低減活動を地域社会、行政、従業員などのステークホルダーの方々と連携しながら推進しています。

● 高岡市と協働で「環境教室」開催 ●

2017年10月、高岡市はおか保育園において、高岡市と協働で「環境教室」を開催しました。これは、高岡市が「グリーンカーテン環境啓発事業^(※1)」として、「こどもエコクラブ」に参加している高岡市の保育園・幼稚園(22ヶ所)に対し、企業と協働で行っているもので、当社は地元地域への社会貢献の一環として、一昨年度より参画しています。

環境教室では、「○×クイズ」や「ゴミ分別ゲーム」を行い、参加した園児23名は楽しみながら、省エネやリサイクルについて学びました。

※1「グリーンカーテン環境啓発事業」高岡市は、次代を担う子供たちの環境に関する関心を高めるため、2011年より、グリーンカーテンを活用した環境啓発を実施し、翌2012年から、「こどもエコクラブ結成」を活動メニューに加えている。2017年現在、市内22の保育園・幼稚園にグリーンカーテンの教育や環境教室の開催などの環境啓発事業を行っている。



省エネや水、ごみの「○×クイズ」



紙バックやカン、ペットボトルなどの「ゴミ分別ゲーム」



紙バックやカン、ペットボトルなどの「ゴミ分別ゲーム」

● とやま環境フェア ●

2017年10月に、「とやま環境フェア2017」が、富山産業展示館(テクノホール)で開催されました。このフェアは、エコライフをテーマに富山県などの主催で毎年開催されています。

当社も毎年出展しており、今年度は環境配慮商品の展示や環境への取り組みを紹介しました。展示品に関するクイズには、親子連れを中心にたくさんの方が挑戦し、終日大いににぎわいました。



来場者への説明風景

環境コミュニケーションの促進(2)

● グリーンカーテンコンテスト ●

従業員の環境意識の向上と家庭の節電やCO₂削減を目的として、「グリーンカーテンコンテスト」を実施しました。カーテンの出来栄やアイデアなどが特に優れている作品を優秀賞として選出し、景品を贈呈しました。

参加者の声

- いつもは二重カーテンで、重苦しく部屋は暗くて暑い夏を過ごしていましたが、今年はグリーンカーテンのおかげで、北風を入れればクーラー・扇風機は使用しなくても良く快適な夏となりました。
- 設置箇所の子供部屋では、風が通り抜けるたびに朝顔の葉がそよそよと涼しげな葉音を奏で、涼しさを引き立ててくれています。
- 西日があたるトイレの小窓の前に設置しました。夏の強い日差しを和らげ、風も入れることができ、エアコンを設置できない場所にはとても効果がありました。

● 環境家計簿 ●

当グループでは、より多くの従業員が環境について理解を深め、主体的に取り組むことができるように、「環境家計簿」(家庭でのCO₂削減の取り組み:2006年度より取り組み開始)を継続して実施しています。

2017年度までに延べ1,053世帯が参加しており、家族で相談しながらCO₂削減に取り組んでいる家庭も多くあります。前年比でCO₂排出量を大きく削減するなど優秀な実績をあげた参加者には景品を贈呈し、家庭でのCO₂削減活動の活性化を促進しています。

今後もこの取り組みを継続して実施し、環境に対する意識向上に努めていきます。

● クールビズ、ウォームビズ運動 ●

当グループは、環境省が地球温暖化防止国民運動として提唱する「クールビズ運動」、「ウォームビズ運動」に賛同し、2005年度より継続して実施しています。

2017年度は、クールビズ期間を5月～9月、ウォームビズ期間を11月～3月として実施しました。

【冷暖房設定温度】

クールビズ:28℃

ウォームビズ:20℃

【服装】

クールビズ:ノーネクタイ、ノー上着

ウォームビズ:ネクタイ着用、寒い時は着る



グリーンカーテンコンテスト優秀作品



環境家計簿2017



クールビズ・ウォームビズ啓発ツール

環境経営および環境リスクへの対応

三協立山グループでは、環境経営および環境リスクへの対応として、ISO14001の認証取得、環境管理・監視体制の強化、産業廃棄物管理の徹底などに取り組んでいます。

● ISO14001の認証取得 ●

三協立山では、2008年度までに全ての工場において、ISO14001を認証取得しました。

ISO14001の取得は、環境マネジメントシステム構築の基本となるため、維持更新を図り、継続的にレベルアップに努めています。

● 環境パトロールの実施 ●

当グループでは、環境事故の未然防止、環境保全意識の向上および法令遵守を目的に、毎年関連会社も含めて全工場の環境パトロールを実施しています。契約書類、届出書類などが法令に準拠しているか、環境測定データが基準値を外れていないか、タンク類が液漏れを起こす危険性がないかなどについて書類チェックおよび現場確認を行っています。

2017年度は、前年に続き法令違反はありませんでした。一部、軽微な指摘事項については、迅速に改善しています。

今後も環境パトロールを継続して実施し、環境事故の未然防止に努めていきます。

● 産業廃棄物処理業者の視察 ●

当グループでは、グループ内から排出された産業廃棄物が法令に準拠して適正に処理されているか確認するため、毎年計画的に産業廃棄物処理業者の視察を実施しています。

2017年度は、4業者を視察しましたが、いずれの業者も適正に処理していることが確認できました。

今後も継続的に視察を実施し、産業廃棄物の適正処理の確認に努めていきます。

● 緊急事態への対応(福光工場の例) ●

福光工場では、毎年地震・火災を想定した緊急事態対応の訓練を実施しています。

今回は震度5強の地震が発生し、重油タンク配管ジョイント部に、亀裂が生じたことによる重油漏れを想定しました。漏れた重油の外部流出を防ぐため、通路および側溝に、土のうで防油堤を築く訓練をしました。また、構内の側溝に油が流出した場合の回収訓練も実施しました。

今後も毎年、訓練を繰返し行うことで、有事の際に各人がどういう行動を取るべきか再確認していきます。



総合排水ピットの確認



少量危険物貯蔵取扱所の確認



視察風景



重油流出防止訓練



報告風景

環境会計

三協立山では、環境省発行の環境会計ガイドラインに基づき、環境保全に係わる費用と効果を定量的に把握して、環境投資と効果を評価しています。

● 2017年度環境会計結果 ●

環境保全コスト

単位：百万円

環境保全コストの分類	コスト項目の主な内容	設備投資		費用	
		2016年度	2017年度	2016年度	2017年度
1. 事業エリア内コスト	事業エリア内で生じる環境負荷を抑制するための環境保全コスト	373	580	439	475
内 訳	1) 公害防止コスト	9	2	146	179
	2) 地球環境保全コスト	361	578	1	1
	3) 資源循環コスト	2	1	293	295
2. 上・下流コスト	グリーン購入など事業エリアの上流側で発生する環境負荷抑制のために必要なコスト	0	0	0	0
3. 管理活動コスト	環境マネジメントシステムの運用のためなどに必要なコスト	0	0	98	95
4. 研究開発コスト	環境負荷抑制に係わる製品の研究開発に必要なコスト	796	167	622	338
5. 社会活動コスト	地域住民の行う環境活動などへの寄付、支援のためのコスト	0	0	5	5
6. 環境損傷コスト	自然修復のために必要なコスト	0	0	0	0
合 計		1,169	747	1,164	913

環境保全効果

環境パフォーマンス指標	単位	2016年度	2017年度	前年との差(環境保全効果)
エネルギー投入量	千GJ	4,362	4,347	15
CO ₂ 排出量	千t-CO ₂	276	276	0
産業廃棄物排出量	千t	26	25	1
排水量	千t	10,182	10,363	-181

環境保全対策に伴う経済効果

単位：百万円

効果の内容	2016年度	2017年度
1. 省エネによるコスト削減	61	83
2. 有価物売却益	207	178
3. ダンボール、緩衝材などの削減	1	1
合 計	269	262

2017年度環境会計の分析

2017年度の環境保全コストとして、設備投資に7億47百万円、費用に9億13百万円を投入しました。設備投資の主なものとして、環境配慮商品の開発などに1億67百万円、費用の主なものとして、廃棄物処理などに2億95百万円投入しました。

設備投資は2016年度に比べて4億22百万円減少、費用は2億51百万円減少しました。

環境保全対策に伴う経済効果は2億62百万円で、2016年度に比べて7百万円減少しました。

●集計期間・・・2017年6月1日～2018年5月31日

●集計範囲・・・三協立山(株)

生産事業所・主要関連会社の環境管理データ(2017年度)

三協アルミ社

工場名			新湊	佐加野	福光	福岡	福岡西					
項目												
所在地			富山県射水市新堀23-1	富山県高岡市佐加野2-2	富山県南砺市小林100	富山県高岡市福岡町矢部1	富山県高岡市福岡町矢部1					
敷地面積	m ²		403,588	149,023	118,215	112,568	46,843					
建物延面積	m ²		155,847	79,963	55,308	56,586	22,083					
CO ₂ 排出量	t-CO ₂		9,985	2,895	3,064	15,847	1,300					
エネルギー使用量	GJ		168,989	43,804	46,455	254,990	20,783					
産業廃棄物排出量	t		737	216	27	2,732	115					
産業廃棄物リサイクル率	%		99.8	100	100	100	100					
水資源使用量	t		621,272	153,355	35,145	592,438	63,929					
排出ガス	SOx濃度	ボイラー	ppm	—	【490以下】	36.2	—	—				
	ばいじん	ボイラー	g/m ³ N	【0.2以下】	<0.01	【0.15以下】	<0.01	—	【0.1以下】	<0.01		
		乾燥炉	g/m ³ N	—	—	—	—	【0.2以下】	<0.009	—		
		加熱炉	g/m ³ N	—	—	—	—	【0.2以下】	<0.02	—		
	NOx濃度	ボイラー	ppm	【150以下】	27	【180以下】	140	—	【150以下】	31		
		乾燥炉	ppm	—	—	—	—	【230以下】	18	—		
加熱炉		ppm	—	—	—	—	【180以下】	42	—			
公共用水域	pH	—	【6.0~8.5】	6.5~7.9	【6.5~8.5】	6.1~8.3⑦	【5.8~8.6】	7.2	【5.8~8.6】	7.0~7.6	—	
	BOD	mg/l	—	—	【20以下】	4.6	【20以下】	2.3	【20以下】	17.0	—	
	COD	mg/l	【20以下】	5.3	【20以下】	5.2	—	—	【160以下】	8.3	—	
	SS	mg/l	【50以下】	<5.0	【30以下】	13.1	—	—	【30以下】	3	—	
	油分	mg/l	【3以下】	<0.5	【3以下】	<0.5	—	—	【5以下】	<1	—	
	ほう素	mg/l	【10以下】	1.2	—	—	—	—	—	—	—	
	クロム	mg/l	【2以下】	<0.2	—	—	—	—	—	—	—	
	六価クロム	mg/l	【0.5以下】	<0.02	—	—	—	—	—	—	—	
	ふっ素	mg/l	【15以下】	<0.8	—	—	—	—	—	—	—	
	全窒素	最大	mg/l	【60以下】	3.9	【60以下】	0.8	—	—	【120以下】	17	—
	全りん	最大	mg/l	【8以下】	0.4	【8以下】	<0.05	—	—	【16以下】	2.1	—
	P R T R 取 扱 量	エチルベンゼン	t	8.1	—	—	—	—	—	—	—	—
キシレン		t	14.4	—	—	—	—	—	—	—	—	
ジクロロメタン		t	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
1,2,4-トリメチルベンゼン		t	2.6	—	—	—	—	—	—	—	—	
トルエン		t	28.6	—	—	—	—	—	—	—	—	
ニッケル		t	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
ニッケル化合物		t	2.6	—	—	—	—	—	—	—	—	
ノルマルヘキサン		t	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
ほう素化合物		t	1.7	—	—	—	—	—	5.4	—	—	
メチルナフタレン		t	—	—	—	—	—	—	—	—	—	

- ①「【】」は基準値を示します。国・県・市町村で定めた値と同等かもしくはより厳しい値に設定しています。
 ②「-」の項目は基準値がない対象施設のない項目です。
 ③略称で表記した項目の内容は次のとおりです。SOx：硫酸化物、NOx：窒素酸化物、pH：水素イオン濃度、BOD：生物化学的酸素要求量、COD：化学的酸素要求量、SS：水中懸濁物質濃度
 ④「<」は数値が表示データ未満であることを示します。
 ⑤「ND」は対象物が不検出(Not Detected)であることを示します。
 ⑥排出ガス、公共用水域の数値は最大値(ただし、pHのみ最小値と最大値)を記載しています。
 ⑦佐加野工場のpH基準値外は、酸性雨によるものです。その後の測定結果では基準値内となっています。

生産事業所・主要関連会社の環境管理データ(2017年度)

三協アルミ社

タテヤマアドバンス社

工場名		水見	福野	射水	横浜				
項目									
所在地		富山県水見市上田41-2	富山県南砺市本江2600-1	富山県射水市奈呉の江13-3	神奈川県横浜市金沢区大川6-1				
敷地面積	m ²	68,575	118,012	268,119	29,386				
建物延面積	m ²	21,558	53,157	135,338	12,318				
CO ₂ 排出量	t-CO ₂	932	3,488	126,976	819				
エネルギー使用量	GJ	14,167	52,957	1,973,750	16,603				
産業廃棄物排出量	t	29	60	18,267	92				
産業廃棄物リサイクル率	%	100	100	98.5	100				
水資源使用量	t	2,792	68,300	6,354,616	2,371				
排出ガス	SO _x 濃度	ボイラー	ppm	—	—	—	—		
	ばいじん	ボイラー	g/m ³ N	【0.1以下】	0.01	—	【0.1以下】	<0.01	
		乾燥炉	g/m ³ N	—	—	—	【0.15以下】	<0.03	
		加熱炉	g/m ³ N	—	—	—	【0.15以下】	<0.01	
	NO _x 濃度	ボイラー	ppm	【140以下】	87	—	【180以下】	87	
		乾燥炉	ppm	—	—	—	【230以下】	22	
加熱炉		ppm	—	—	—	【180以下】	130		
公共用水域	pH	—	【5.8~8.6】	7.1~7.6	【5.8~8.6】	7.2	【6.0~8.5】	6.2~8.2	—
	BOD	mg/l	【30以下】	6.1	【20以下】	1.5	【20以下】	13	—
	COD	mg/l	—	—	—	—	【20以下】	3.6	—
	SS	mg/l	【50以下】	6.0	【10以下】	2.0	【50以下】	28	—
	油分	mg/l	【15以下】	<1	【15以下】	ND	【2以下】	0.7	—
	ほう素	mg/l	—	—	—	—	【10以下】	4.7	—
	クロム	mg/l	—	—	—	—	—	—	—
	六価クロム	mg/l	—	—	—	—	—	—	—
	ふっ素	mg/l	—	—	—	—	【8以下】	0.3	—
	全窒素	最大	mg/l	—	—	—	—	—	—
	全りん	最大	mg/l	—	—	—	—	—	—
	P R T R 取 扱 量	キシレン	t	—	—	—	—	—	—
トリエチルアミン		t	—	—	—	6.6	—	—	
1,2,4-トリメチルベンゼン		t	—	—	—	—	—	—	
ニッケル		t	—	—	—	15.0	—	—	
ニッケル化合物		t	—	—	—	9.6	—	—	
ほう素化合物		t	—	—	—	6.8	—	—	
メチレンビス(4,1-フェニレン)=ジイソシアネート		t	2.3	—	—	—	—	—	

- ①「【】」は基準値を示します。国・県・市町村で定めた値と同等かもしくはより厳しい値に設定しています。
- ②「-」の項目は基準値がないか対象施設のない項目です。
- ③略称で表記した項目の内容は次のとおりです。SO_x：硫黄酸化物、NO_x：窒素酸化物、pH：水素イオン濃度、BOD：生物化学的酸素要求量、COD：化学的酸素要求量、SS：水中懸濁物質濃度
- ④「<」は数値が表示データ未満であることを示します。
- ⑤「ND」は対象物が不検出(Not Detected)であることを示します。
- ⑥排出ガス、公共用水域の数値は最大値(ただし、pHのみ最小値と最大値)を記載しています。

生産事業所・主要関連会社の環境管理データ(2017年度)

三協マテリアル社

工場名		高岡	新湊東	石川	奈呉	戸出								
項目														
所在地		富山県高岡市北島851	富山県射水市新堀28-1	石川県羽咋郡宝達志水町杉野屋ぬ-1-1	富山県射水市奈呉の江8-3	富山県高岡市戸出春日802								
敷地面積	m ²	95,825	78,264	146,963	151,457	12,653								
建物延面積	m ²	56,385	13,398	42,195	41,879	6,035								
CO ₂ 排出量	t-CO ₂	1,601	10,060	24,988	72,678	2,041								
エネルギー使用量	GJ	24,447	153,763	395,578	1,123,941	30,912								
産業廃棄物排出量	t	49	16	1,913	636	30								
産業廃棄物リサイクル率	%	100	96.8	100	93.8	100								
水資源使用量	t	74,537	105,210	501,854	1,509,329	34,655								
排出ガス	SOx濃度	ボイラー K値	—	—	【8.00以下】	ND	—	—						
		乾燥炉 K値	—	—	【8.00以下】	ND	—	—						
		加熱炉 K値	—	—	【8.00以下】	ND	—	—						
		溶解炉 m ³ N/Hr	—	—	—	【4.56】	1.00	—						
	ばいじん	ボイラー g/m ³ N	—	—	【0.1以下】	<0.01	—	—						
		乾燥炉 g/m ³ N	—	—	【0.2以下】	<0.03	—	—						
		加熱炉 g/m ³ N	—	【0.2以下】	<0.01	【0.2以下】	<0.01	【0.15以下】	0.06					
		溶解炉 g/m ³ N	—	—	—	【0.15以下】	0.11	—						
	NOx濃度	ボイラー ppm	—	—	【150以下】	15	—	—						
		乾燥炉 ppm	—	—	【230以下】	20	—	—						
		加熱炉 ppm	—	【180以下】	30	【180以下】	88	【120以下】	76					
		溶解炉 ppm	—	—	—	【150以下】	100	—						
	ダイオキシン	溶解炉 ng-TEQ/m ³ N	—	—	—	【5以下】	1.3	—						
公共用水域	pH	—	【5.8~8.6】	7.1~8.4	【5.8~8.6】	6.7~7.8	【5.8~8.6】	6.8~7.3	【5.5~8.5】	7.1~7.6	【5.8~8.6】	7.4		
	BOD	mg/l	【20以下】	18	—	—	—	【30以下】	4.1	—	—	【25以下】	1.6	
	COD	mg/l	—	—	—	—	—	—	—	【20以下】	2.6	—	—	
	SS	mg/l	【100以下】	51	—	—	—	—	【30以下】	3.0	【50以下】	5	【120以下】	4
	油分	mg/l	【5以下】	1.4	【5以下】	<0.5	—	—	【5以下】	1.1	【3以下】	0.8	【15以下】	ND
	ダイオキシン	pg-TEQ/L	—	—	—	—	—	—	—	—	【10以下】	2.1	—	—
P R T R 取扱量	キシレン	t	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	クロムおよび3価クロム化合物	t	—	—	—	—	—	—	—	18.0	—	—	—	
	1,2,4-トリメチルベンゼン	t	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	ニッケル	t	—	—	—	—	—	1.4	—	—	—	—	—	
	ニッケル化合物	t	—	—	—	—	—	1.9	—	—	—	—	—	
	ふっ化水素およびその水溶性塩	t	—	—	—	—	—	1.2	—	8.1	—	—	—	
	ほう素化合物	t	—	—	—	—	—	1.7	—	1.6	—	—	—	
	マンガンおよびその化合物	t	—	—	—	—	—	—	—	37.1	—	—	—	
メチルナフタレン	t	—	—	—	—	—	—	—	29.0	—	—	—		

- ①「【】」は基準値を示します。国・県・市町村で定めた値と同等かもしくはより厳しい値に設定しています。
- ②「-」の項目は基準値がない対象施設のない項目です。
- ③略称で表記した項目の内容は次のとおりです。SOx：硫酸化合物、NOx：窒素化合物、pH：水素イオン濃度、BOD：生物学的酸素要求量、COD：化学的酸素要求量、SS：水中懸濁物質濃度
- ④「<」は数値が表示データ未満であることを示します。
- ⑤「ND」は対象物が不検出(Not Detected)であることを示します。
- ⑥排出ガス、公共用水域の数値は最大値(ただし、pHのみ最小値と最大値)を記載しています。

生産事業所・主要関連会社の環境管理データ(2017年度)

関連会社(国内)

工場名		協立アルミ(本社)	協立アルミ(井口)	STメタルズ(本社)	STメタルズ(西朴木)	STメタルズ(海老坂)
所在地		富山県南砺市久戸10	富山県南砺市井口110	高岡市福岡町矢部1009	富山県氷見市西朴木38	富山県氷見市上田子字笹谷内58
敷地面積	m ²	116,000	22,000	16,769	41,996	110,240
建物延面積	m ²	62,000	16,000	10,619	14,684	11,514
CO ₂ 排出量	t-CO ₂	2,117	712	1,891	602	652
エネルギー使用量	GJ	46,867	15,324	29,480	9,314	10,082
産業廃棄物排出量	t	1,674	788	125	18	32
産業廃棄物リサイクル率	%	99.3	99.1	98.2	98.5	98.8
水資源使用量	t	54,693	2,376	—	3,643	4,200

工場名		三協化成	サンクリエイト	カシイ	三精工業(本社)	三精工業(有磯)
所在地		富山県高岡市福岡町下向田3-1	富山県南砺市岩武新80番地の1	富山市三郷18番地	富山県射水市奈呉の江13番地の8	富山県射水市有磯二丁目33番地の4
敷地面積	m ²	66,743	47,082	28,275	46,326	30,533
建物延面積	m ²	16,435	7,672	16,809	30,533	16,150
CO ₂ 排出量	t-CO ₂	3,230	1,960	482	2,592	1,659
エネルギー使用量	GJ	50,150	39,766	7,617	41,371	26,601
産業廃棄物排出量	t	210	61	75	145	16
産業廃棄物リサイクル率	%	98.0	53.7	81.3	88.3	98.3
水資源使用量	t	116,543	5,951	5,261	362,052	135,759

工場名		石川精機	三協ワシメタル	三協サーモテック行田	三協サーモテック上野原
所在地		愛知県西尾市寺津町五十間7	富山県高岡市長慶寺575	埼玉県行田市富士見町1-12-13	山梨県上野原市上野原8154-25
敷地面積	m ²	11,119	24,000	11,513	9,580
建物延面積	m ²	6,030	15,503	5,505	3,234
CO ₂ 排出量	t-CO ₂	2,250	4,966	423	532
エネルギー使用量	GJ	57,809	85,949	7,753	10,012
産業廃棄物排出量	t	166	727	2	0
産業廃棄物リサイクル率	%	99.3	93.0	94.0	100.0
水資源使用量	t	3,310	120,731	630	754

関連会社(海外)

会社・工場名		Sankyo Tateyama Europe BVBA	ST Extruded Products Germany GmbH	三協立山押出製品(天津)有限公司	Sankyo Tateyama Alloy(Thailand) Co.,Ltd.	Thai Metal Aluminium Co.,Ltd.
国名		ベルギー	ドイツ	中国	タイ	タイ
CO ₂ 排出量	t-CO ₂	4,036	34,301	10,973	1,302	20,107
エネルギー使用量	GJ	139,085	706,430	136,367	26,167	369,726
水資源使用量	t	0	102,839	18,670	5,581	230,347

会社・工場名		Thai-Aust Aluminium Co.,Ltd.	Sankyo Engineering(Thailand) Co.,Ltd.	佛山三協電子有限公司	SANKYOTATEYAMA PHILIPPINES INC.	上海立山商業設備有限公司
国名		タイ	タイ	中国	フィリピン	中国
CO ₂ 排出量	t-CO ₂	197	703	232	109	2,132
エネルギー使用量	GJ	3,896	14,020	3,500	2,146	30,030
水資源使用量	t	9,323	4,172	1,980	9,257	22,763

環境保全活動の歩みとグループのこの1年

環境保全活動の歩み

- 1967年 ●公害対策基本法制定
- 1971年 ●本社技術部に公害防止対策部署を設置
[三協アルミ](以降 各工場に環境保全課を設置)
- 1993年 ●環境基本法制定
●ボランティアプラン策定[三協アルミ]
(環境理念・環境スローガンの制定)
- 1996年 ●特定フロン全廃完了
- 1998年 ●福光、福野工場の表面処理設備廃止
- 1999年 ●立山合金 石川工場(現 石川工場) ISO14001認証取得
●全社の環境方針制定[三協アルミ]
(課題別委員会の設置、活動開始)
- 2000年 ●循環型社会形成推進基本法の制定
●新湊工場、氷見工場 ISO14001認証取得
●佐加野工場の表面処理設備廃止
●本社生産本部に環境対策部を設置[立山アルミ]
- 2001年 ●環境報告書の発行[三協アルミ]
●グループ全社でトリクロロエチレンの使用を全廃
●福野工場、佐加野工場 ISO14001認証取得
●富山軽金属(現 射水工場) ISO14001認証取得
●富山合金(現 奈呉工場) ISO14001認証取得
●社内向け「環境宣言」発表[立山アルミ]
(テーマ別委員会の設置、活動開始)
- 2002年 ●高岡工場 ISO14001認証取得
- 2003年 ●福光工場、福岡工場 ISO14001認証取得
- 2004年 ●三協化成 ISO14001認証取得
- 2005年 ●新湊マテリアル工場(現 射水工場)、新湊工場
都市ガス(天然ガス)の導入
- 2006年 ●三精工業、三協工機(現 戸出工場)、サンクリエイト、
協立アルミ、タテヤマメタックス(現 STメタルズ西杣木工場)
ISO14001認証取得
- 2007年 ●横浜工場 ISO14001認証取得
- 2008年 ●横浜工場 ISO14001を拡大取得
- 2013年 ●福岡工場、石川工場 天然ガスの導入
●高岡市と「森づくり」活動に関する協定調印
(森づくり活動開始)
- 2015年 ●全工場において産業廃棄物「電子マニフェスト」を運用
- 2016年 ●第1回環境委員会開催

グループのこの1年

- 2017年
 - 6月 ●三協アルミ 長野SPC(三協アルミプレゼンセンター)オープン
●国際事業、STEP-G「International Paris Air Show 2017」
出展
 - 7月 ●三協アルミ「リフォーム産業フェア2017」出展
●三協アルミ「未来のとびらコンテスト2017」開催
●三協立山「男女共同参画推進事業所」に継続認定
 - 8月 ●三協立山 プロ野球BCリーグ「震災遺児育英支援冠試合」開催
●三協アルミ「MTG-70R」が「第11回キッズデザイン賞」受賞
●タテヤマアドバンス「第59回 サイン&ディスプレイショウ」出展
●三協立山 第72回定時株主総会開催
 - 9月 ●三協立山 コクヨ株式会社とストア事業の吸収分割契約を締結
●国際事業 STEP-Gの建材ブランド「BUG」Webサイトリニューアル「BUG」Webサイト <https://www.bug.de/>
●三協マテリアル社、国際事業、STEP-G「エアロマート名古屋
2017」出展
●三協アルミ「ぐんまりビングフェア2017」出展
 - 10月 ●三協アルミ 3商品が「2017年度グッドデザイン賞」受賞
●三協アルミ「LIVING & DESIGN 2017」出展
●三協立山「富山県ものづくり総合見本市2017」出展
 - 11月 ●三協立山「ツインリーフの森づくり」植樹活動を実施
●三協アルミ ハイスペックサッシ「アルジオ」平成29年度中部地
方発明表彰で発明奨励賞を受賞
●三協アルミ ハイスペックサッシ「アルジオ(上げ下げ窓)」第55回
富山県発明とくふう展で富山県発明協会会長賞を受賞
 - 12月 ●三協立山 南砺市の「なんと!やさしい子育て応援企業」に認定
●三協アルミ「第2回[高性能]建材EXPO」に出展
●三協アルミ「住まいのインテリア展」にインテリア建材「LIVERNO」
を展示
- 2018年
 - 4月 ●三協立山 平成30年度 三協立山グループ入社式
●国際事業、STEP-G ドイツの建材展示会「FENSTERBAU(フェ
ンスターバウ)2018」に出展
●三協アルミ エクステリア新商品展示会/EXE2018 開催
 - 5月 ●三協アルミ、Thai Metal Aluminium Co.,Ltd
タイ・バンコクの国際建築建材展「Architect'18」に出展

三協立山グループ 「CSR 報告書 2018」を読んで



神戸大学大学院 経営学研究科
教授 國部 克彦

『ものづくり』のCSR

「三協立山グループの最も重要なCSR(企業の社会的責任)とは、『ものづくり』です」と山下社長のトップメッセージに示されていますが、これは非常に重要な方針の説明です。報告書では、商品開発の基本理念として、①環境配慮と②ユニバーサルデザインが示されており、トップの方針と合致した活動が展開されていることが分かります。今後はこのような活動の発展を示す指標化を考えられると良いように思います。たとえば、商品の社会化の程度を評価して、社会や環境に配慮したウエートの高い商品の売上を示すなどの方法があると思います。また、顧客の声のような情報も掲載されれば、三協立山グループの社会的な評価を理解するうえで、役に立つと思います。

充実した地域貢献

毎年のようにコメントしていますが、三協立山グループのCSR活動の最大の特徴は地域貢献にあります。富山県に根差した企業として様々な活動をされています。今年度は「ツインリーフの森づくり」について詳細に紹介されています。5年間で2,500本の苗木を植えられたことは大変大きな成果であると高く評価できます。苗木が成長する2028年までこの活動を継続するというのですが、このような地道で継続的な地域貢献が、地域の活力を創り出すと思います。その他の活動も非常に充実されています。今後も、三協立山グループに期待する地域の声を吸い上げて、活動を展開してほしいと思います。

SDGs(持続可能な開発目標)への対応

今年度の報告書ではCSR活動実績とSDGs(持続可能な開発目標)の関係が示されています。対応関係を検討されたことは、大きな進歩だと思います。今後は、これをどのように具体的に展開していくかを考えるべき段階に入ります。SDGsとして活動を促進する以上、これまでの活動に加えた追加的な実践が重要になってきます。三協立山グループとして、SDGsに対して新たに何ができるのかを考えることがその第一歩になります。そのためには、社員を巻き込んで、全社的な運動として展開することは有効です。SDGsは、地球に生きるすべての人間の責任でもあるわけですから、社員一人ひとりの意識と関与が大切です。それを促進する仕組みが、三協立山グループのCSRをさらに発展させることになると思います。

三協立山 会社概要

会社名 三協立山株式会社
 (英文名称 Sankyo Tateyama, Inc.)
設立年月日 1960年6月20日
所在地 本社 富山県高岡市早川70番地
 東京オフィス
 東京都中野区中央1-38-1<友友中野坂上ビル20F>
代表者 代表取締役社長 山下 清胤
URL <http://www.st-grp.co.jp/>

(2018年5月期)

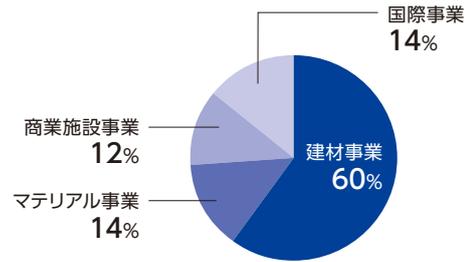
資本金 150億円
従業員数 5,654名
連結従業員数 11,256名
連結売上高 3,284億9百万円
営業利益 12億1百万円
総資産 2,710億17百万円
事業内容

- ビル用建材・住宅用建材・エクステリア建材の開発・製造・販売。アルミニウムおよびその他金属の圧延加工品の製造・販売。
- アルミニウムおよびマグネシウムの鋳造・押出・加工ならびにその販売。
- 店舗用汎用陳列什器の販売。規格看板・その他看板の製造・販売。店舗および関連設備のメンテナンス。

○連結売上高および営業利益



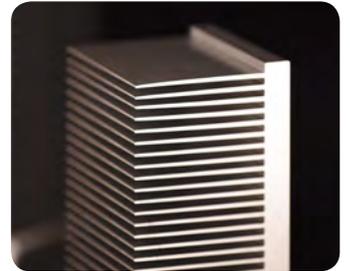
○事業別売上げ構成比 (2018年5月期)



三協立山株式会社

三協アルミ社<建材事業>

- 住宅建材** 玄関ドア、窓、防犯配慮商品、インテリア建材、窓まわり商品、その他
- エクステリア建材** 門扉、フェンス、カーポート、テラス、サンルーム、サイクルポート、通路シェルター、その他
- ビル建材** サッシ・ドア、カーテンウォール、改装、フロント、手すり、内外装建材、環境商品、その他



三協マテリアル社<マテリアル事業>

- アルミニウム、マグネシウムの鋳造・押出・加工**
 押出加工品採用実績：電気機器、輸送機器、産業機械、OA機器、土木・仮設資材、家具、福祉機材、その他
 ……………
 鋳造：アルミニウム合金ビレット、マグネシウム合金ビレット



タテヤマアドバンス社<商業施設事業>

- 商業施設** 汎用・専用什器、カウンター、ディスプレイ什器、その他
- サイン** スタンドサイン、ファサードサイン、突出しサイン、大型サイン、壁面・吊下げサイン、掲示板、屋内外サイン
- 店舗メンテナンス** 店舗メンテナンス、店舗リニューアル

国際事業

- 海外でのアルミニウム鋳造、押出、加工



編集方針

「CSR報告書2018」の発行にあたって

三協立山グループでは、ステークホルダーの皆様への適切な情報開示を重要と考えています。

2001年に「環境報告書」として環境保全活動に関する情報開示をスタートしました。2005年からは「社会・環境報告書」として社会性に関する取り組みについても報告してきました。そして2007年からは、より自主的に社会的責任を果たしていく姿勢を明示し、タイトルを「CSR報告書」と改め、現在に至っています。

当グループの経営理念は、「お得意先」「地域社会」「社員」の三者が協力し、共栄するという協業の精神です。この報告書の中で、経営理念に基づくさまざまな取り組みを紹介していますので、これらを通じて当グループをご理解いただけましたら幸いです。

対象期間

2017年6月1日から2018年5月31日

当報告書では、上記期間を「2017年度」と表記しています。

活動内容については、一部2016年度以前のもの、および2018年度のものも含まれます。

対象範囲

- 三協立山株式会社
 - 三協アルミ社：新湊工場、佐加野工場、福光工場、福岡工場、福岡西工場、氷見工場、福野工場、射水工場
 - 三協マテリアル社：高岡工場、新湊東工場、石川工場、奈呉工場、戸出工場
 - タテヤマアドバンス社：横浜工場
- 関連会社：ST物流サービス、協立アルミ、三協化成、サンクリエイト、三精工業、STメタルズ、石川精機、三協ワシメタル、三協サーモテック、Sankyo Tateyama Philippines Inc.、佛山三協電子有限公司、Sankyo Engineering (Thailand) Co.,Ltd.、上海立山商業設備有限公司、Sankyo Tateyama Alloy(Thailand)Co.,Ltd.、Thai Metal Aluminium Co.,Ltd.、Thai-Aust Aluminium Co.,Ltd.、Sankyo Tateyama Europe BVBA、ST Extruded Products Germany GmbH、三協立山押出製品(天津)有限公司

参考にしたガイドライン

・環境省「環境報告ガイドライン(2012年版)」

シンボルマーク「ツインリーフ」



ハート型の葉を持つ新芽のマークは、覚えやすく親しみやすいかたちです。

このマークを介して、お客様、お得意様、株主・投資家の皆様はもちろん、地域の方々や社員との良好なコミュニケーションを築けるように願っています。

人と人、社会と企業というつながりをフリーハンドの曲線でやわらかく表現し、シンボル化しています。「社会と私たち」「お客様と私たち」「環境と私たち」・・・など“心と心をつなぐシンボル”として位置付けています。



 三協立山株式会社

総務部 CSR・コンプライアンス推進課
〒933-8610 富山県高岡市早川70番地
電話 0766-20-2550 FAX 0766-20-2082
ホームページアドレス <http://www.st-grp.co.jp/>